

大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラム  
評価

**2022 年度 報告書**

大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会



目次

巻頭言

第1章 大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラムの評価方法の策定・・・・・・・・・・1

1. 大阪医科薬科大学のアセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）
2. 看護学部カリキュラム評価委員会の目的と位置付け
3. 看護学教育カリキュラムの評価方法

第2章 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価の結果および総括・・・・・・・・・・5

1. 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価結果
2. 本学部の強みおよび課題
3. 次年度に向けた課題

資料

1. 大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会運営要領・・・・・・・・・・10
2. 2022年度 大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会名簿・・・・・・・・・・12
3. 看護学部カリキュラム評価委員会会議および学内ワーキング開催状況・・・・・・・・・・13
4. 2022年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価・14  
根拠資料一覧 大項目 1. ディプロマポリシー  
大項目 2. 環境  
大項目 3. 過程  
大項目 4. 成果  
大項目 5. アドミッションポリシー  
大項目 6. 改善
5. 2022年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価・36  
委員評価一覧 大項目 1. ディプロマポリシー  
大項目 2. 環境  
大項目 3. 過程  
大項目 4. 成果  
大項目 5. アドミッションポリシー  
大項目 6. 改善

## 巻頭言

2021 年度大阪医科薬科大学は、3 学部から成る医療系総合大学として新たな一歩を踏みだしました。それに伴い 2021 年 11 月に教育研究の内部質保証にかかる検証を行う「教育研究内部質保証評価会議」が設置されたため、看護学部カリキュラム評価委員会は、「教育研究内部質保証評価会議」における看護学部固有の分科会の位置づけとなりました。組織は、薬学部教員 1 名が新たに加わり、内部委員 6 名（看護学部教員 3 名、学務部 1 名、学年が異なる 2 名の学生）、外部委員 4 名（医学部教員 1 名、薬学部教員 1 名、他大学看護系教員 1 名、自治体に所属する専門家 1 名）の体制となりました。

評価基準は、継続した評価を実施するため、昨年度の評価基準を踏襲しました。

2021 年度は、大学統合により国際交流委員会が新たに設置され、医療系総合大学の特徴あるカリキュラムの一つである 3 学部学生によるカンファレンスを開催する分野拡大などの変化がありました。また、ディプロマポリシーの達成度を可視化し、学習意欲を高める方略として、ディプロマサプリメントを導入しました。そのような状況を踏まえ、カリキュラム評価の根拠資料として、「1. ディプロマポリシー」に“国際交流委員会年報”と“ディプロマサプリメント”を追加し、「3. 過程」に“多職種連携教育の評価関連資料”を追加しました。

カリキュラム評価委員会は、COVID-19 の影響に伴い、今年度も Zoom での開催となりましたが、評価委員会の前に、外部委員と学生委員から評価項目別にコメントをいただき内部委員がコメントに対して回答を行い、取り組み内容について多角的に評価を行うことができました。また、学生委員の意見について、外部委員を含め活発な意見交換が行われ、解決策が明らかになりました。

今後は、本委員会が教育研究内部質保証評価会議の看護学部分科会として、さらに広い視野で評価がなされ、既存の枠組みを超えた改革につながることを期待します。

2023 年 3 月

大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会

# 第 1 章

## 第1章 大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラムの評価方法の策定

### 1. 大阪医科薬科大学のアセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）

本学の理念は、建学の精神及び学是（至誠仁術）に基づき、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして、人間性豊かで創造性に富み人類の福祉と文化の発展に貢献する医療人の育成である（学則第1条）。また、本学の目的は、前述した理念に基づき、豊かな人間性と国際的視野を備えた、1) 人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努める人材、2) 変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材、3) 地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探求心を持って活躍する人材を育成することである（学則第2条）。

本学では、教育の成果を可視化し、教育改善を恒常的に実施する目的で、3つのポリシーに即した評価指標に基づいて学生の学修成果を測定・評価している。評価は、学生の入学時から卒業までを視野にいれ、教育課程レベル、科目レベルにおいて、多面的に行っている。本学では、アセスメントポリシーを踏まえた「教学マネジメント（大学がその教育目的を達成するために行う管理運営）」を確立させ、不断の教育改善に取り組んでいるところである。

以下に、機関レベル（大学レベル）および看護学部看護学科のアセスメントポリシーを示す。

表1. 大阪医科薬科大学 機関レベル（大学レベル）のアセスメントポリシー

	入学時	在学中	卒業時
査定の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドミッションポリシーを満たす人材か</li> <li>・アドミッションポリシーの妥当性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムポリシーに則った学修が進められているか</li> <li>・カリキュラムポリシーの妥当性</li> <li>・アドミッションポリシーの妥当性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディプロマポリシー（以下、DP）を満たす人材になったか</li> <li>・DPの妥当性</li> <li>・カリキュラムポリシーの妥当性</li> <li>・アドミッションポリシーの妥当性</li> </ul>
機関レベル （大学レベル）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学試験</li> <li>・入学時調査</li> <li>・入試制度評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進級率、休学率、退学率</li> <li>・学勢調査</li> <li>・正課外活動状況（短期留学、クラブ、ボランティア等）</li> <li>・ポートフォリオ</li> </ul>	<p>[卒業時]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業時アンケート（学勢調査）</li> <li>国家試験合格率（医・保・助・看）</li> <li>研修先一覧（マッチング結果：医学部）</li> <li>就職率／進学率（看護学部）</li> </ul> <p>[卒業後]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生アンケート</li> <li>卒業生就職先／勤務先へのアンケート</li> </ul>

表 2. 大阪医科薬科大学 看護学部看護学科のアセスメントポリシー

	入学時	在学中	卒業時
課程レベル (学部レベル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学試験</li> <li>・入学時調査</li> <li>・入試制度評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修得単位数</li> <li>・GPA</li> <li>・学勢調査（カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査）</li> <li>・教員によるカリキュラム評価</li> <li>・進級率、休学率、退学率</li> <li>・保健師、助産師コース希望者数</li> <li>・外部試験結果（国家試験模試等）</li> <li>・正課外活動ポートフォリオ</li> <li>・入試制度別成績、態度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業要件：修得単位数、卒業演習評価</li> <li>・資格取得：国家試験合格率</li> <li>・GPA</li> <li>・休学率、退学率</li> <li>・就職率、進学率</li> <li>・学勢調査（カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査）</li> <li>・卒業時到達目標の自己評価</li> <li>・正課外活動ポートフォリオ</li> <li>・入試制度別成績、態度</li> </ul>
科目レベル		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目評価（講義・演習・実習）</li> <li>・実習ポートフォリオ</li> <li>・授業評価（学生）</li> <li>・授業改善報告書（教員）</li> <li>・ピアレビュー報告書（授業見学）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目成績（講義・演習・実習）</li> </ul>

[https://www.ompu.ac.jp/education/f\\_nursing/policy/assessment\\_policy.html](https://www.ompu.ac.jp/education/f_nursing/policy/assessment_policy.html)

2021年4月1日現在

## 2. 看護学部カリキュラム評価委員会の目的と位置付け

本委員会は、定期的な自己点検・評価の取組を踏まえた本学における自主的・自律的な質保証への取組（内部質保証）のひとつとして2019年4月1日に設置された。

本委員会の目的は、本学看護学教育カリキュラムについて継続的に評価することであり、委員に複数の学外有識者も含め多角的に評価を行うことで、自己点検および評価活動に反映させ看護学部教育水準の更なる向上を目指すものである。

本委員会は、「課程レベル（学部レベル）のPDCAサイクルをモニタリングする」という位置付けにある。PDCAサイクルとは、目標設定とその実現のためのプロセスを設計するPlan（企画・立案）、計画の実施とその効果を測定するDo（実施）、結果を分析し評価するCheck（評価）、プロセスの継続改善に必要な措置を行うAction（検証・改善）の4段階を繰り返すことによって、継続的な改善を目指すマネジメントサイクルのひとつである。4段階のステップとスパイラルを

積み重ねるプロセスをモニタリングすることによって、より質の高い教育活動が可能となる。

PDCA サイクルのモニタリングの継続により、①教育目標の達成状況を把握することができる、②達成されていない教育目標についてその原因を探ることができる、③原因は把握から改善の道筋を明確にすることができる、④改善がどこまで進んだかを追跡することができる。

本委員会の運営要領は、資料 1、2022 年度委員名簿は資料 2 に示す。

### 3. 看護学教育カリキュラムの評価方法

#### 1) 評価項目と評価基準

本学看護学部看護学科のアセスメントポリシーおよび本委員会の目的・位置付けに基づき、評価項目が設定された。評価項目は、大・中・小項目で構成され、大項目は①本学看護学部ディプロマポリシー（学位授与の方針）、②教育設備に関する環境、③過程、④成果、⑤アドミッションポリシー、⑥改善である。中項目は、大項目について 2～5 の項目、小項目は中項目をどのような点で評価するかを示す項目である。評価するための根拠となる資料をそれぞれ明示した。なお、評価項目で用いる「カリキュラム」とは、各科目および科目全体を指す。

評価基準は、A：十分に実施されている（解釈：PDCA がなされている）、B：概ね実施されている（解釈：一部実施にむけた検討がなされている）、C：大幅な見直し、改善が必要（解釈：PDCA がなされていない）である。

評価項目および評価基準は、本学看護学部教授会ならびに本委員会で協議し、決定された。表 3 に示す。

#### 2) 評価の方法

評価は、前年度に実施された本学看護学部看護学科の教育と教育をめぐる環境に関して、根拠資料（資料 4-1～4-6）ごとに示された「P」・「D」・「C」・「A」の内容から、評価基準に沿って評価し、コメントがある場合には記載がなされた。さらに、中項目ごとに総合評価が行われた。

学外委員（第 2～4 号委員）および学生委員（第 6 号委員）は各々、評価し、学内委員（第 1 号および第 5 号委員）は意見を集約し、評価を行った。

各委員による評価は、資料 5-1～5-6 のとおりである。この資料に基づき、本委員会で協議し、評価結果をまとめた。

なお、2022 年度は学内ワーキングを 7 回開催し、本委員会は 2 回開催した（第 1 回委員会：2022 年 9 月 21 日、第 2 回委員会：2023 年 2 月 3 日）（資料 3）。本委員会は、いずれも委員の過半数の出席があり、定足数を満たしていた。

#### 3) 評価結果のフィードバック

本委員会の評価結果は、運営要領の第 5 条 4 に基づき、委員長が本学看護学部長に報告した。また、本学看護学部教授会ならびに本学看護学部学科会議にて委員長は報告を行い、本学看護学部教職員と評価結果の共有がなされた。

本委員会の全ての委員には報告書が送付された。

さらに、評価結果を広く共有すべく、報告書は本学ホームページに掲載し、その旨は本学看護学部学生に周知した。



表 3. 大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラム 課程レベル (学部レベル) の評価項目

課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価			2022年度カリキュラム評価委員会 学内WG		
大項目	中項目	小項目	資料	評価	コメント
1. ディプロマポリシー	①生命の尊厳を守り、人権を尊重し、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重した行動をとることができる	科目ごとにDP①～⑥との対応が示されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業演習評価</li> <li>GPA (累積GPA・単年GPA)</li> <li>休学率、退学率</li> <li>卒業時到達目標の自己評価</li> <li>資格取得：国試合格率</li> <li>進学率・就職率</li> <li>学勢調査</li> <li>正課外活動ポートフォリオ</li> </ul>		
	②多面的かつグローバルな視点から看護に関する課題を探索し、新しい知識や技術の創造に取り組むことができる	DP①～⑥の能力を有しているか学生が自己評価している			
	③看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ、個別の健康課題に対し、ライフステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる	DP①～⑥の能力を有しているか外部指標を用いて評価している			
	④地域社会における健康課題を把握し、多職種と連携し協働する必要性と方法を理解して、多様な課題の解決に取り組むことができる				
	⑤自らのキャリア形成を見据えて、向上心を持って自己研鑽し続けることができる				
2. 環境	①アクティブラーニングを展開する学習環境が整っている	学内に小グループで活動できる部屋がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>学内ICT状況 (キャンパスマップ、各階平面図)</li> <li>常勤教員数</li> <li>文部科学省調査「指定 (認定) 学校概況」等報告書</li> <li>設備 (ア) グループ演習室、イ) セルフトレーニングルーム、ウ) PC台数、エ) 文献検索、統計処理が可能なPC、オ) 無料インターネット (Wi-Fi) に接続できる</li> <li>図書館、キ) 自学自習室、ク) 実習室、ケ) キャリアサポートルーム</li> </ul>		
	②ICTの設備が整っている	学内に学生数のPCの台数がある			
	③カリキュラム*を運用する体制が整っている (*各科目および科目全体を指す)	学生数に対して、常勤教員数が確保されている			
	④教育・実習に関する設備が整っている	学内に図書館がある			
3. 過程	①カリキュラム*は計画通り実施されている (*各科目および科目全体を指す)	GPA評価により学生の進捗状況を把握している	<ul style="list-style-type: none"> <li>各科目評価</li> <li>修得単位数</li> <li>ガイダンス (教育センター・学生生活支援センター)</li> <li>チューター制度</li> <li>看護学実習におけるCOVID-19対策</li> <li>実習ポートフォリオ</li> <li>授業評価</li> <li>進級率、休学率、退学率</li> <li>保健師、助産師コース選抜</li> <li>教員・学生によるカリキュラム評価</li> <li>GPA (全体推移・単年GPA・個別GPA)</li> <li>授業改善報告書</li> <li>ピアレビュー報告書</li> <li>FD実施状況</li> <li>実習連絡協議会の報告資料</li> <li>国際交流活動</li> <li>多職種連携教育</li> </ul>		
	②科目の配列はDPを達成できる最善のものとなっている	科目配置は基礎科目、専門基礎科目、専門科目の順となっている			
	③教授活動の質の保証を示す根拠がある	学生による授業評価を行っている			
4. 成果	①カリキュラムの目標を達成している	看護技術経験表評価調査を実施・評価している	<ul style="list-style-type: none"> <li>各科目評価</li> <li>修得単位数</li> <li>卒業先評価</li> <li>卒業時到達目標の自己評価</li> <li>ジェネリックスキルテスト</li> <li>卒業生就職先アンケート調査</li> <li>看護技術経験表評価調査</li> <li>資格取得：国試合格率</li> </ul>		
	②社会人基礎力を身につけている	卒業生就職先アンケートを実施・評価している			
	③雇用者は卒業生の能力に満足している	ジェネリックスキルテストを実施・評価している			
5. アドミッションポリシー	①人間の健康と生活の営みに関心のある人を受け入れている	AP①～⑥の基盤となる基礎学力と応用力が示されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学選抜基本方針</li> <li>大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等</li> <li>入学試験の志願者数と志願倍率</li> <li>入学時調査 (新入生の出身校評定)</li> <li>入試制度別の成績調査</li> <li>ジェネリックスキルテスト</li> </ul>		
	②他者の気持ちや立場を理解し、思いやりをもって関わるることができる人を受け入れている	AP①～⑥にかかわる入学選抜方法が示されている			
	③看護学を学ぶうえで基盤となる基礎学力と応用力をもっている人を受け入れている	AP①～⑥の状況について外部指標を用いて評価している			
	④他者とコミュニケーションをとり協力して行動できる人を受け入れている				
	⑤研究心をもち、自ら課題を見出して学ぶ意欲のある人を受け入れている				
	⑥看護学を学び、地域社会及び国際社会に貢献したい人を受け入れている				
6. 改善	①学生、教職員が目標達成のための課題や問題点を知っている	学生と教職員が課題や問題点を共有する場がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科会議議事録</li> <li>3センター (看護実践研究センター、看護学教育センター、学生生活支援センター) 活動報告</li> <li>卒業生就職先アンケート調査</li> <li>学生からの要望に対する対応</li> <li>学生・教員懇談会 意見箱の運用</li> </ul>		
	②評価結果、前回の目標、社会状況などのデータや事実に基づいて、連続性のある次のPlanがたてられている	共有した課題や問題点の改善策を示す場がある			

評価 A…十分に実施されている、B…概ね実施されている、C…大幅な見直し、改善が必要



## 第 2 章

## 第2章 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価の結果および総括

### 1. 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価結果

根拠資料一覧は資料 4-1～4-6 に示した。各委員より集約した評価およびコメントの一覧表は資料 5-1～5-6 のとおりである。以下には大項目ごとに結果の概要を示す。

#### 1) 大項目 1. ディプロマポリシー

##### (1) PDCA サイクル

- ・「GPA（累積 GPA・単年 GPA）」、「休学率、退学率」については、委員全員が A と評価していた。この 2 つ以外の項目については、1 名が B であったが、その他の委員は A と評価していた。

##### (2) 総合評価

- ・中項目「①生命の尊厳を守り、人権を尊重し、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重した行動をとることができる」、「④地域社会における健康課題を把握し、多職種と連携し協働する必要性と方法を理解して、多様な課題の解決に取り組むことができる」については、委員全員が A と評価していた。
- ・中項目「②多面的かつグローバルな視点から看護に関する課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組むことができる」については、2 名の委員が B と評価していたが、その他の委員は A と評価していた。
- ・中項目「③看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ、個別の健康課題に対し、ライフステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる」、「⑤自らのキャリア形成を見据えて、向上心を持って自己研鑽し続けることができる」については、1 名が B であったが、その他の委員は A と評価していた。

#### 2) 大項目 2. 環境

##### (1) PDCA サイクル

- ・すべての項目について、半数以上の委員が A と評価していた。

##### (2) 総合評価

- ・中項目「①アクティブラーニングを展開する学習環境が整っている」については、委員全員が A と評価していた。
- ・中項目「②ICT の設備が整っている」「③カリキュラム\*を運用する体制が整っている（\*各科目および科目全体を指す）」「④教育・実習に関する設備が整っている」については、1 名が B であったが、その他の委員は A と評価していた。

#### 3) 大項目 3. 過程

##### (1) PDCA サイクル

- ・「各科目評価」、「修得単位数」、「看護学実習における COVID-19 対策」、「進級率、休学率、退学率」、「GPA（全体推移・単年 GPA・個別 GPA）」、「授業改善報告書」、「FD 実施状況」、「実習連絡協議会の報告資料」、「多職種連携教育」については、委員全員が A と評価していた。

- ・半数以上の委員が A と評価していた項目は、「ガイダンス（教育センター・学生生活支援センター）」、「チューター制度」、「実習ポートフォリオ」、「授業評価」、「保健師、助産師コース選抜」、「教員・学生によるカリキュラム評価」であった。
- ・A 評価よりも B 評価が多かった項目は、「ピアレビュー報告書」、「国際交流活動」であった。

#### (2) 総合評価

- ・中項目「①カリキュラムは計画通り実施されている」と「②科目の配列は DP を達成できる最善のものとなっている」については、委員全員が A と評価していた。
- ・中項目「③教授活動の質の保証を示す根拠がある」については、2 名の委員が B と評価していたが、その他の委員は A と評価していた。

### 4) 大項目 4. 成果

#### (1) PDCA サイクル

- ・「卒業先評価」については、1 名の委員が B と評価していたが、その他の委員は A と評価していた。
- ・その他の項目については、委員全員が A と評価していた。

#### (2) 総合評価

- ・中項目「①カリキュラムの目標を達成している」について、1 名の委員が B と評価していたが、その他の委員は A と評価していた。その他の項目については、委員全員が A と評価していた。

### 5) 大項目 5. アドミッションポリシー

#### (1) PDCA サイクル

- ・「ジェネリックスキルテスト」については、委員全員が A と評価していた。
- ・その他の項目については、半数以上の委員が A と評価していた。

#### (2) 総合評価

- ・中項目「①人間の健康と生活の営みに関心のある人を受け入れている」、「⑤研究心をもち、自ら課題を見出して学ぶ意欲のある人を受け入れている」、「⑥看護学を学び、地域社会及び国際社会に貢献したい人を受け入れている」については、委員全員が A と評価していた。
- ・中項目「②他者の気持ちや立場を理解し、思いやりをもって関わることをできる人を受け入れている」、「③看護学を学ぶうえで基盤となる基礎学力と応用力をもっている人を受け入れている」、「④他者とコミュニケーションをとり協力して行動できる人を受け入れている」については、1 名の委員が B と評価していたが、その他の委員は A と評価していた。

### 6) 大項目 6. 改善

#### (1) PDCA サイクル

- ・「学科会議議事録」「3 センター活動報告」「卒業生就職先アンケート調査」については、委員全員が A と評価していた。
- ・「学生からの要望に対する対応 学生・教員懇談会 意見箱の運用」については、A 評価よりも B 評価の委員が多かった。

## (2) 総合評価

- ・中項目「①学生，教職員が目標達成のための課題や問題点を知っている」，「②評価結果，前回の目標，社会状況などのデータや事実に基づいて，連続性のある次の Plan がたてられている」については共に1名の委員のみBと評価していたが，その他の委員はAと評価していた。

## 2. 本学部の強みおよび課題

### 1) 本学部の PDCA サイクルから評価した結果の強み

外部委員，学生委員，内部委員ともに A と評価した中項目および評価は下記の通りであった。

#### ・大項目 1. ディプロマポリシー

中項目①生命の尊厳を守り，人権を尊重し，多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重した行動をとることができる

中項目④地域社会における健康課題を把握し，他職種と連携し協働する必要性と方法を理解して，多様な課題の解決に取り組むことができる

#### ・大項目 2. 環境

中項目①アクティブラーニングを展開する学習環境が整っている

#### ・大項目 3. 過程

中項目①カリキュラムは計画通り実施されている

中項目②科目の配列は DP を達成できる最善のものとなっている

#### ・大項目 4. 成果

中項目②社会人基礎力を身につけている

中項目③雇用者は卒業生の能力に満足している

#### ・大項目 5. アドミッションポリシー

中項目①人間の健康と生活の営みに関心のある人を受け入れている

中項目⑤研究心をもち，自ら課題を見出して学ぶ意欲のある人を受け入れている

中項目⑥看護学を学び，地域社会及び国際社会に貢献したい人を受け入れている

以上より，カリキュラムの運営について PDCA が回っており，常に振り返り，改善にむけて取り組みがなされていると評価できる。

### 2) 本学部の PDCA サイクルから評価した結果の課題

外部委員，学生委員，内部委員の評価で乖離のあった項目と複数の委員が B と評価した項目，および課題は下記の通りであった。

#### ・大項目 1. DP

中項目②多面的かつグローバルな視点から看護に関する課題を探求し，新しい知識や技術の創造に取り組むことができる

中項目③看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ，個別の健康課題に対し，ライフステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる

中項目⑤自らのキャリア形成を見据えて，向上心を持って自己研鑽し続けることができる

#### ・大項目 2. 環境

中項目②ICT の設備が整っている

中項目③カリキュラムを運用する体制が整っている

中項目④教育・実習に関する設備が整っている

・大項目 3. 過程

中項目③教育活動の質の保証を示す根拠がある

・大項目 4. 成果

中項目①カリキュラムの目標を達成している

・大項目 5. アドミッションポリシー

中項目②他者の気持ちや立場を理解し、思いやりをもって関わるができる人を受け入れている

中項目③看護学を学ぶ上で基礎となる基礎学力と応用力を持っている人を受け入れている

中項目④他者とコミュニケーションをとり協力して行動できる人を受け入れている

6. 改善

中項目①学生、教職員が目標達成のための課題や問題点を知っている

中項目②評価結果、前回の目標、社会状況などのデータや事実に基づいて、連続性のある次の Plan がたてられている

以上より、多面的かつグローバルな視点に対しては、国際交流の再開やさらなる手段の開拓によって、今後の改善を期待する。学習支援の評価については、GPA2.0 未満学生の支援効果について、学部全体として客観的評価を行うことが今後の課題である。社会人としての資質では、COVID-19 感染拡大後、正課外活動の自粛やオンライン授業の増加、実習機会の減少などにより、社会人基礎力の低下が危惧される。看護学教育は看護専門職を養成する教育でもあることから、社会人基礎力、およびアドミッションポリシー②③④の強化について、具体策の検討と共有が今後の課題である。

3. 次年度に向けた課題

今年度は、昨年度から引き続き取り組むべき課題および、2022 年度より運用されている新カリキュラムに関する評価を行うことが課題として示された。

1) COVID19 が与える影響について

- ・ COVID-19 の影響を鑑み、教学への影響、社会人基礎力育成への影響、正課外活動への影響など継続的に評価していく必要がある。また、食事場所の制限などが継続しているため、学部間で情報共有しながら、環境の改善を行うことが課題である。

2) 学習支援の評価について

- ・ ディプロマサプリメントの活用については、活用開始間もないため、学生・教員間でサプリの存在や活用方法等が十分周知できていない。今後、活用方法等を周知して、評価していくことが課題である。
- ・ GPA2.0 未満学生の支援効果については、成績の改善につながった事例も見られるが、学部全体として客観的評価を行うことが今後の課題である。

3) 社会人としての資質・国際的視点について

- ・社会人としての資質・国際的視点を高めることが、課題として認識はされており，社会人としての資質についてはガイダンスに加え必要時に指導を行うこと，国際的視点については，現地への派遣に留まらずオンラインを活用した交流や講演会など関心を高める活動を継続していく必要がある。さらに，卒後の国際的視点や活動等を評価することも検討する。



# 資料

## 大阪医科薬科大学 看護学部カリキュラム評価委員会運営要領

(平成31年4月1日施行)

(目的)

**第1条** この運営要領は、大阪医科薬科大学教育研究内部質保証評価会議規程第5条に基づき、大阪医科薬科大学看護学部に、大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会(以下、「委員会」という。)を置き、その必要な事項を定める。

(設置)

**第2条** 大阪医科薬科大学の看護学教育カリキュラムについて継続的な評価をするために委員会を置く。また、学外有識者による評価を行い、その意見を自己点検・評価活動に反映させ看護学部教育水準の更なる向上を図るものとする。

(組織)

**第3条** 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 看護学部教員 3名
- (2) 医学部教員 1名
- (3) 薬学部教員 1名
- (4) 他大学看護系教員 1名
- (5) 自治体、商工会議所、企業等からの委員 1名
- (6) 看護学事務課 1名
- (7) 看護学部学生(第2学年生代表1名、第4学年生代表1名)

2 委員は、学部長の推薦に基づき、看護学部教授会の議を得て学部長が委嘱する。

(審議事項)

**第4条** 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 看護学部の教育カリキュラムの評価に関すること。
- (2) その他、カリキュラムに関すること。
- (3) その他、学部長の諮問する事項

(委員長)

**第5条** 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、看護学部教員からの互選により選出する。
- 3 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 4 委員長は、委員会において審議した結果を看護学部長に報告する。

(任期)

**第6条** 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、看護学部学生委員の任期は1年とする。また、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会 議)

**第7条** 委員会は、原則として年に2回以上開催する。

2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことはできない。

3 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席させることができる。

(改 廃)

**第8条** この運営要領の改廃は、委員会で発議し、看護学部教授会の議を経て、看護学部長が行う。

**附 則**

この運営要領は、平成31年4月1日から施行する。

**附 則**

この改正は、令和3年4月1日から施行する。

**附 則**

この改正は、令和4年5月13日から施行する。

**附 則**

この改正は、令和4年9月22日から施行する。

2022年度 大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会名簿

任期期間：2022年4月1日～2023年3月31日

役職	所属	職位	氏名	第3条 組織の各号
委員長	実践支援看護学領域 看護教育学分野	教授	池西 悦子	第1号：看護学部教員
委員	地域家族支援看護学領域 母性看護学・助産学分野	教授	佐々木 綾子	第1号：看護学部教員
委員	療養生活支援看護学領域 精神看護学分野	准教授	瓜崎 貴雄	第1号：看護学部教員
委員	医学教育センター	専門教授	瀧谷 公隆	第2号：医学部教員
委員	薬学部薬剤学研究室	教授・薬学 教育センタ ー長	永井 純也	第3号：薬学部教員
委員	大阪公立大学大学院看護 学研究科看護教育学分野	教授	細田 泰子	第4号：他大学看護系 教員
委員	高槻市保健所 健康医療政策課	統括保健師	近藤 康子	第5号：自治体、商工 会議所、企業等からの 委員
委員	学務部 看護学事務課	事務員	北川 祐美	第6号：看護学事務課
委員	看護学部	学生	原田 麻衣	第7号：看護学生第2 学年代表
委員	看護学部	学生	河村 まひろ	第7号：看護学生第4 学年代表

※任期は1年 再任を妨げない

※学生の任期は1年 毎年4月以降に総代の見直しがある

看護学部カリキュラム評価委員会 会議および学内ワーキング開催状況

1. 2022年 カリキュラム評価委員会（合計2回開催）

第1回カリキュラム評価委員会：2022年9月21日

第2回カリキュラム評価委員会：2023年2月3日

2. 2022年 学内ワーキング（合計7回開催）

第1回学内ワーキング：2022年4月20日

第2回学内ワーキング：2022年6月15日

第3回学内ワーキング：2022年7月20日

第4回学内ワーキング：2022年8月25日

第5回学内ワーキング：2022年9月21日

第6回学内ワーキング：2022年12月2日

第7回学内ワーキング：2023年1月23日

大項目 1. ディプロマポリシー

評価	解説
A→十分に実施されている	PKAがなされている
B→概ね実施されている	一部実施に向けて検討がなされている
C→大幅な見直し、改善が必要	PKAがなされていない

総合評価	
中項目	小項目
①生命の尊厳を守り、人権を尊重し、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重した行動をとることができる	科目ごとにDP①~⑥との対応が示されている
②多面的かつグローバルな視点から看護に関する課題を探求し、新しい知識や技術の創出に取り組むことができる	DP①~⑥の能力を有しているか学生が自己評価している
③看護学に関する基本的な専門知識と技能を習得し、専門的知識を応用し、理論的・実践的課題に取り組むことができる	DP①~⑥の能力を有しているか外部指導を用いて評価している
④地域社会における健康課題を把握し、多職種と連携し協働する必要性と方法を理解し、多様な課題の解決に取り組むことができる	
⑤自らのキャリア形成を見据えて、向上心を持って自己研鑽し続けることができる	

資料	根拠資料の公開形態	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	カリキュラム評価委員コメント
卒業演習評価	○	2021年度年報	18	2.教育センター担当科目の運営と美18,19	17,18	2.教育センター担当科目の運営と美18,19 D卒業演習に関する事項 D卒業演習の森森会の運営・実施 COVID-19感染拡大の状況に鑑み、発表者は対面（大学での発表）やzoomのハイブリッドで実施した。3年生等は対面やzoomのいずれから参加があつた。計8名以上の学生が発表は10項目において、全て無く実施できた。 (2)卒業演習要項の作成と領域決定卒業演習要項を作成し、卒業演習オリエンテーションまでに事前配布された。COVID-19感染拡大の状況から学内での分野決定が困難なことからZoomとZoomミーティングを用いた(実習中の学生)のオンラインで分野決定のアンケート調査を行った。随修ガイダンスと分野決定はzoomと対面(実習中の学生)のハイブリッドで行った。今年度、初めてresponを導入した分野決定を行ったが不具合等もなく、学生の希望する研究内容等の集約もスムーズに実施された。今年度、卒業演習項目は変更し、今年度から実施することができた。	18,19 22,23	1.効果が上がっている事項 2.授業評価と実習ポートフォリオ卒業演習にも対応した卒業演習項目に変更し、今年度から実施することができた。					
	○	2021年度年報	17	1.教育課程全般の運営	17,18	1.教育課程全般の運営 4.GPAの分野別GPAと2021年度前年度の成績について科目別の成績の正確化をめざし、カリキュラム委員会及び医務と連携をして各学年のGPAや各科目の積み上げ図を作成し、教務会で共有した。また、試験職の多い科目について各自責任者に振り回りを依頼し、卒業演習に合わせた成績不良学生の学生指導、進級・卒業判定は各要件に基づき教務会で審議し適正に行った。また、GPAが2.0（望ましい水準）未満の学生に対し、チューター教員等による学修指導を依頼・実施し、取り組みによって学生の改善がみられたかを評価した。	17,18	1.効果が上がっている事項 D教育課程全般に関する事項 D教育課程全般に関する事項 例年2月次の学年GPAが2.4前後に低下しており、2020年度2学期GPAは高くなく他学年と同一レベルに維持できなかった。2021年度はGPAが2.0前後の学生が増加したことから、引き継ぎ成績の正確化と学生の学修指導の強化が必要である。	24	2.GPA2.0未満の学生への学修指導の強化およびGPAの分析と正確化の促進			
	○	教育年報 看護学部	87	(2) 学年ごとの単年GPA分布と2020年度単年GPA分布と2020年度分布の比較	87, 88	2021年度の学年ごとの単年GPA分布、2021年度単年GPA分布と2020年度分布の比較が示されている。	88	これまで7年生の GPA 平均値が学年全体で見るとときに低かったが、2020年度と同様に2.6以上を維持している。他の学年と同様の GPA 平均値が維持されている。また、2020年度と比較すると、3年生の GPA 平均値が若干上昇しているが、他の学年はほぼ同等である。	88	今後もGPAが低い学生への学修指導を継続し、学修への動機づけを行う。			
	○	HP(看護学部GPA実施について) (2021年度看護学部学年ごとの単年GPA分布)		HP(看護学部GPA (Grade Point Average) 実施について (2022年度版)) https://www.cmu.ac.jp/education/nursing/outcomes/gpa2022.html HP(2021年度看護学部 学年ごとの単年GPA分布) https://www.cmu.ac.jp/education/nursing/outcomes/gpa2021.html	#1-1 #1-2	看護学部GPA実施について説明し、2021年度の看護学部学年ごとのGPA分布を公開している。							

・GPA (課程GPA・単年GPA)

						2021年度の進級率は、3年生が100%、2年生が97.8%であり、休学期と退学率はともに0.55%であった。	86	86						
	○	2021年度 看護学部 教育年報	4. 進級率, 休学期率, 退学率	退学率	14.5) 学籍移動について: 学籍移動対応した。	14.5) 学籍移動について: 学籍移動対応した。	29	86			1.14) 退学 (4名), 休学 (5名), 除籍1名であった (3月末), 留保除籍等とも連絡を取り対応した。	31		
	○	2021年度年報	その他 (学外研修会、障がい学生支援、専攻種別推進、学籍移動、学生生活ガイダンス修正、大阪医科大学大学生支援の方針に基づく点検評価)				27							
	○	2021年度年報	HP (看護学部看護学科の各種数値等) (https://www.omp.ac.jp/education/?chursisng/data.html)	HP (看護学部看護学科の各種数値等) (https://www.omp.ac.jp/education/?chursisng/data.html)	HPに「看護学部看護学科 在籍者数」内にて2021年退学・除籍者数・中退率が記載されている。		*1-3							休学者、退学者は教務会で開かれ、単記されている。教員間でも共有されている。
	×	2021年度教授会議議事録:公開資料なし (学内教職員のみ閲覧可能)			休学・退学した学生に関して教務会で共有されている。									
	○	2021年度年報	1.アセスメントレポートに基づいた学修成果の把握 2) ディプロマレポートに基づく卒業 業時看護実践能力到達度の調査の 実地 3) アイローマサブリメン トの導入	1.アセスメントレポートに基づいた学修成果の把握 2) DPに基づいた看護実践能力到達度の調査を各学年の学生に行なったこと とまたGPAを活用したディプロマレポートにより、学生が主体的・客観的に学修成果を把握でき、客観的に評価できること期待できる。	1.1) アセスメントレポートに基づいた学修成果の把握 2) DPに基づいた看護実践能力到達度の調査を各学年の学生に行なったこととまたGPAを活用したディプロマレポートにより、学生が主体的・客観的に学修成果を把握でき、客観的に評価できること期待できる。		32, 33	34						1.アセスメントレポートに基づいたレポートの検証と教員改善への活用 2. 教育センターとの共同による 2022年度看護学教育評価の委嘱準備 3. ディプロマレポートの活用 4. e-ポートフォリオの導入計画
	○	HP (看護師・保健師・助産師国家試験合格半推挙)	HP (看護師・保健師・助産師国家試験合格半推挙)	HP (看護師・保健師・助産師国家試験合格半推挙)	HP内に看護学部 (旧 大阪医科大家) 看護師・保健師・助産師国家試験 合格半推挙が記載されている。		*1-4							
	○	HP (看護師・保健師・助産師国家試験合格半推挙)	HP (看護師・保健師・助産師国家試験合格半推挙)	HP (看護師・保健師・助産師国家試験合格半推挙)	HP内に国家試験対策支援として国家試験対策委員会活動が記載されている。		*1-5							
	○	資格取得: 国家合格率	1. 全国合格を目指した国家試験受験対策指導の継続 2. 2021年度国家試験対策の模範及び対策講座の実施 3. 2022年度国家試験対策の企画及び算案の作成 4. 模範対策講座の開催 5. 模範対策講座の保護者への出席率を向上させる対策の検討 6. 国家試験対策 (模範および対策講座) の評価	1. 各級分組 2. 模範と対策講座 3. 国家試験問題の事前購入、4. テacherとの情報共有、5. 看護師・助産師国家試験対策の企画、6. 保健師・助産師国家試験対策、7. 自己採点会、8. 学生生活ガイダンス修正、9. その他 10. 国家試験対策講座の開催 11. 模範対策講座の保護者への出席率を向上させる対策の検討 12. 国家試験対策 (模範および対策講座) の評価	1. 1) 第11回看護師国家試験は受験生 (在学生) 82名、既卒生1名が全員合格した (全国平均は受験生38名が全員合格した (全国平均99.3%)。第10回助産師国家試験は99.4%)。6名が全員合格した (全国平均99.4%) 2) Webを活用した情報提供、学習支援は有効であった。 2.1) 新型コロナウイルス感染症への対応のため、大学行事の日程が変更されることも多く、国家試験対策の対応のことも多く、国家試験対策に日割が重なり、出席率が低くなる傾向があった。このため、多くの学生が希望するよう、国家試験対策のオリエンテーションの開催を予定した。		52- 53						1. 1) 第11回看護師国家試験は受験生 (在学生) 82名、既卒生1名が全員合格した (全国平均は受験生38名が全員合格した (全国平均99.3%)。第10回助産師国家試験は99.4%)。6名が全員合格した (全国平均99.4%) 2) Webを活用した情報提供、学習支援は有効であった。 2.1) 新型コロナウイルス感染症への対応のため、大学行事の日程が変更されることも多く、国家試験対策に日割が重なり、出席率が低くなる傾向があった。このため、多くの学生が希望するよう、国家試験対策のオリエンテーションの開催を予定した。	

	○	HP(就職支援)		HP(就職支援) https://www.ompn.ac.jp/campus11/fo/nursing/support.html	*1-6	<p>1. 就職活動支援センターの開設 2. 就職活動支援センターの開設 3. 就職活動支援センターの開設 4. 就職活動支援センターの開設 5. 就職活動支援センターの開設 6. 就職活動支援センターの開設</p>	*1-6	<p>卒業生82名中就職者76名(96.3%)、進学者3名(3.7%)であった。</p>	46	<p>1. 就職活動支援センターの開設 2. 就職活動支援センターの開設 3. 就職活動支援センターの開設 4. 就職活動支援センターの開設 5. 就職活動支援センターの開設 6. 就職活動支援センターの開設</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>進学率・就職率</li> </ul>	○	2021年度年報	47	<p>1. 学生に対する就職情報提供 2. 学生の就職活動力強化のためのサポート 3. 就職活動及び内定状況の把握 4. 卒業生からの情報提供の充実をはかる 5. 卒業生に関するアンケート調査 6. HPの更新</p>	47	<p>1. 低学年のガイダンス開催やタレントに就職情報を発信し、学生の意識向上を図った。情報提供として掲示板、ユニバ、サポートルームの資料が充実した。このうちユニバは50-70%であった。2021年度は就職ガイダンスを3回実施した。卒業生次生全員の連絡が定着したことを確認し、学部教授会で報告した。</p>	47-48	<p>卒業生82名中就職者76名(96.3%)、進学者3名(3.7%)であった。</p>	48	<p>1. 就職活動支援センターの開設 2. 就職活動支援センターの開設 3. 就職活動支援センターの開設 4. 就職活動支援センターの開設 5. 就職活動支援センターの開設 6. 就職活動支援センターの開設</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>学務調査</li> </ul>	○	HP(学務実態)	25	HP(学務実態) https://www.ompn.ac.jp/campus11/fo/common/survey/2021/faculty/nursing/06.html	*1-7	<p>1. 学務実態についての調査結果が公開されている。</p>	28	<p>1. 3) (学務調査) 医学部看護学部合同の調査内容の見直し、実施した。</p>	30	<p>1. 3) (学務調査) 医学部看護学部合同の調査内容の見直し、実施した。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>学務調査</li> </ul>	○	2021年度年報	26	3. (学務調査) 医学部看護学部合同の調査内容の見直し、実施	26	<p>3. (学務調査) 医学部看護学部合同の調査内容の見直し、実施 ・調査内容の見直し、実施した。</p>	47-92	<p>学務調査の結果が、報告書に掲載されている。</p>	47-92	<p>1. 11) 正課外活動サポートフォーリオの充実 ・正課外活動サポートフォーリオの充実 ・入学に関する学生への周知を前期・後期に実施した。合計298名(87.1%)の2年生55名(61.6%)、3年生80名(95.2%)、4年生77名(93.9%)であった。4年間を通して入力のない学生には直接入力を促した。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>正課外活動サポートフォーリオ</li> </ul>	○	2021年度年報	25	11. 正課外活動サポートフォーリオの充実	27	<p>11. 正課外活動サポートフォーリオの充実 ・入学に関する学生への周知を前期・後期に実施した。</p>	28	<p>1. 11) 正課外活動サポートフォーリオの充実 ・正課外活動サポートフォーリオの充実 ・入学に関する学生への周知を前期・後期に実施した。合計298名(87.1%)の2年生55名(61.6%)、3年生80名(95.2%)、4年生77名(93.9%)であった。4年間を通して入力のない学生には直接入力を促した。</p>	47-92	<p>1. 11) 正課外活動サポートフォーリオの充実 ・正課外活動サポートフォーリオの充実 ・入学に関する学生への周知を前期・後期に実施した。</p>		



大項目 2. 実践

評価	解説
A…十分に整備されている	PKCMがなされている
B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大幅な見直し、改善が必要	PKCMがなされていない

中項目	小項目	総合評価
①アクティブラーニングを展開する学習環境が整っている	学内に小グループで活動できる部屋がある	
	学内に看護実践のセルフトレーニングができる部屋がある	
②ICTの設備が整っている	学内に学生数のPCの台数がある	
	学内に文庫検索、統計処理ができるPCがある	
③カリキュラム*を運用する体制が整っている (*各科目および科目全体を指す)	学内のいずれも場所でも無料でインターネット (Wi-Fi) に接続できる	
	遠隔授業ができる環境が整っている	
④教育・実習に関する設備が整っている	学生数に対して、常勤教員数が確保されている	
	学生数に対して、臨床実習指導者数が確保されている	
	学内に図書がある	
	学生が自己学習できる部屋がある	
	学内に看護実践の基礎能力を身につける実習室がある	
	学内にキャリア形成のための情報収集ができる部屋がある	

資料	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	カリキュラム評価委員	
資料 ・学内ICT施設 (キャンパスマップ、各階平面図)	看護学部学生生活の手引き2021年度			23		キャンパスマップ (館内建物案内図) で本館・図書館などの場所が明記されている。 Wi-Fi利用域の利用についても明記されている。							
	HP (キャンパスマップ) <a href="https://www.osmu.ac.jp/about/facilities/ev/compusmp.html">https://www.osmu.ac.jp/about/facilities/ev/compusmp.html</a>			*2-1	同上								
	看護学事務課より教員向け周知資料 ・授業の録画録音利用について			-		講義第1・4のコントロールパネルがデジタル化されたことが明記されている。							
	各階平面図：公開資料なし (2016年度までは公開していたが防犯上等の理由により現在は非公開。構内の各階に掲示あり)			-		情報処理室の場所が明記されている。							
	教習センター「オンライン」班、貸出学生専用 (常勤) 非密教員専用 (非常勤) に関する操作説明資料												
	情報器整備費 (遠隔授業活用推進事業) 補助金実績報告書：2021年度3月に文部科学省からの公開資料公開し (看護学事務課が保管している)												
	私立学校施設整備費補助金 (ICT活用推進事業) 学内LAN整備 令和2・3年度ICT活用推進事業計画調整後 届書：文科省へ提出のため公開資料なし												
		大学等が行う遠隔授業を実施するための取組として、授業の録音録画のインフラを整備し、複数の者が権限超過を介して双方向送受信を行う等遠隔授業の実施にあたり必要となるソフトウェアの購入費、使用料、遠隔授業設備の専門的指導や利用支援等を行う者の人件費											
		学生利用ネットワーク等の整備目的は、スムーズにハイブリッド授業を行えるためである。本学の新入学生においては、PCを必須化する方針としたため、学生個人のPCを学内ネットワークに接続する機会が増える。また、防犯上、授業の録音録画を行うためのネットワークを安定して接続できる必要がある。											
		学生利用ネットワーク等の整備は、スムーズにハイブリッド授業を行えるためである。本学の新入学生においては、PCを必須化する方針としたため、学生個人のPCを学内ネットワークに接続する機会が増える。また、防犯上、授業の録音録画を行うためのネットワークを安定して接続できる必要がある。											

・常勤教員数	○	2021年度年報			4-5	教員構成及び教員数、非常勤教員や非常勤補助員の採用について明記されている。						
・文部科学省調査「指定（仮定）学校鑑別」等報告書	×	毎年5月に文部科学省へ提出し、公開資料なし（看護学専務課が保管している）			52-63	実習施設における実習指導者数は、報告6、実習施設等の概要に明記されている。						
	○	2021年度学務調査報告書			52-63	4. 学内施設の利用頻度と満足度として以下の項目が明記され、公開されている。 ①図書館 ②図書室・自習室 ③グループラーニングスペース ④講義室1,2,4,5 ⑤講義室3 ⑥情報処理室 ⑦セレクトレナーニンググループ ⑧地下食堂 ⑨保健管理室 ⑩学生相談室 ⑪キャリア支援	学内施設の利用頻度と満足度についての評価が、報告書に掲載されている。					
	○	看護学部学生生活のびき2021年度		9-12	9-12	ア) グループ演習室 イ) セレクトレナーニンググループ エ) 文献検索、統計処理が可能なPC オ) 無料インターネット(Wi-Fi)接続は、看護学総構の手続きの順で利用できる旨が明記されている。 ウ) 自習室 ク) 実習室 ケ) キヤリアサポート及びサポートルーム利用方法について明記されている。						
	○	2021年度年報	9. 新型コロナウイルス感染症に伴うオンライン授業の導入と整備	17	21, 22	2) 遠隔zoom化(4-5月)：4月19日から5月31日まで、可能科目は全てzoom授業とし、即座に授業の外部録音でzoom授業の録音がなかつたため、直前の4月15日にzoom接続テストを行って遠隔授業へのスムーズな移行を図った。 4) 後期授業：10月の講義・演習はハイブリッド授業を基本とした。 5) 遠隔zoom化(1月以降)：1月11日(水)から1月14日(土)は原則zoom授業に切り替えた。						
	○	HP (大阪医科薬科大学本部図書館) <a href="https://lib.opu.ac.jp/depul/">https://lib.opu.ac.jp/depul/</a> (HP紹介)：看護学部(北キャンパス) <a href="https://www.opu.ac.jp/about/facilities/central_north/north.html">https://www.opu.ac.jp/about/facilities/central_north/north.html</a>			*2-2	ア) 図書館は、利用時間や利用方法が掲載されており、リモートアクセス(Ezproxy)も整備されている。						
	×	各階平面図、公開資料なし。(2016年度までは公開していたが犯上等の理由により現在は非公開。構内の各階に掲示あり)			*2-3	ア) グループ演習室は、学生グループが自学自習できる場所として掲載。 ア) グループ演習室 イ) セレクトレナーニング室 ウ) 実習室 ク) キヤリアサポートルームと、情報処理室の場所が明記されている。						

2022年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル（学部レベル）のキャリア評価

大項目 3. 進級

評価	解釈
A→十分に整備されている	PDCAがなされている
B→概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
C→大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

中項目	小項目	総合評価
①キャリアプログラム*は計画通り実施されている。(*各科目および科目全体を指す)	6月以降により学生の進捗状況を把握している	
	教員によるキャリアプログラムの振り返りを行っている	
	科目配当は基礎科目、専門基礎科目、専門科目の順となっている	
②科目の配列はDPを達成できる順番のものとなっている	各科目を通してDP達成できるよう配置されている	
	新キャリアプログラムの申請を行っている	
	学生による授業評価を行っている	
③教授活動の質の保証を示す根拠がある	PDを定期的に実施している	
	授業評価に対する改善報告書を学生に返答している	
	教員間のピアレビューを実施している	
	他職系習得者に対するフォローアップバックアップを行っている	

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	キャリアコミュニケーション
・各科目評価	○	2021年度年報（看護学教育センター）	20-21	5. 授業評価・改善 2) 教員の授業改善	21	2021年度も引き続き授業（実習）改善報告書を作成し、学生に公開した。	22-23	改善報告書は今年度4年目となり年度別で改善点の水位が見やすくなっている。	70-79	A			
	○	2021年度年報	70-79		70-79	各領域において各科目の実施・評価等を行った。	70-79	同左	70-79		各領域において将来に向けた発展方策・課題を挙げた。		
	○	2021年度版履修のびびき	64-69		64-69	授業科目一覧							
・修得単位数	○	2021年度教育年報	34		34	卒業要件・取得資格							
	○	2021年度教育年報	87		87	教授会にて、8月、1月、3月に全学年を対象として各判定資料を用いて検証した。	87	2021年度、進級要件を満たさなかった学生は1名（第2学年）、実習要件を満たさなかった学生は1名（第3学年）、卒業要件を満たさなかった学生は1名（第3学年）であった。					
							97	第4学年88名のうち87名は127単位以上履修した（1名は後期に休学）。					

						4月11日(木)9:30～11:20 に「職修ガイダンス」を、4月11日(木)14:50～16:30に「オリエンテーション」を用いた方法、4月2日(金)11:30～12:50(2グループ)「職修修練」についてオリエンテーションを実施する旨が記されている。				
	×	新入生ガイダンススケジュール		2020年度第18回看護学教育センター会議事務局の審議事項「新入生オリエンテーションの予定および補助」について		4月1日に学生生活ガイドおよびスライドを用いて60分説明する旨が記されている。				
	×			2020年度第12回看護学学生生活支援センター会議事務局の報告事項「新入生オリエンテーション」		新学期は1月28日(木)14:40～16:30に実施した。内容は、保健管理科と学生生活支援センターからのお知らせ、履修ガイダンス(教育目的・目標・各ポリシーの確認、進級について、保健師・助産師国家試験受験資格希望者の選抜について、学事予定表の重要事項の確認、英習予定と英習ポイントオリオ、自主試験対策)について、その他「教員奮闘記」であった。				
	×					新4年生の卒業演習・総合看護学実習オリエンテーションは2月24日(木)13:00～14:00に実施した。内容は、卒業演習の説明、総合看護学実習と看護実践履修実習の目的と方法の説明、各部隊の紹介であった。新4年生の履修ガイダンスは3月1日(日)10:30～11:10に実施した。内容は保健管理科と学生生活支援センターからのお知らせ、学事日程と履修について(選択科目履修希望調査)、国家試験対策、卒業演習の履修決定であった。				
	×					職員、メンバークラス、指導上の履修点、学生対応に困ったとき、資料(面談シートなど)が明記されている。				
	○					「チャーター制度に関する指針」の内容を、修正した。チャーター制度の明確化、新任教員に対する入職時のオリエンテーションなど、現状に即した更新なるフロッタシオンアップが必要である。				
・チャーター制度					2021年度年報	「チャーター制度」の運用について、教員が考えるべき課題や、学生が感じる課題を、職員と話し合い、改善策を立案し、実施する。また、チャーター制度の運用状況を、定期的に評価し、改善策を立案し、実施する。また、チャーター制度の運用状況を、定期的に評価し、改善策を立案し、実施する。	28	チャーター活動に関するアンケートの結果から分かったこととして、コロナ禍で学生との直接的なコミュニケーションが取りづらい状態が続いているが、ほとんどの教員が年間を過ごして学生と連絡を取り合ったり面談を行うなどコミュニケーションを大切にしてきた。チャーター制度への真意は、昨年と比較して前より強まっている。また、チャーター制度に関する課題も、前より多く見られた。コロナウイルス感染症との関連が考えられる。	28	チャーター活動に関するアンケートの結果から分かったこととして、コロナ禍で学生との直接的なコミュニケーションが取りづらい状態が続いているが、ほとんどの教員が年間を過ごして学生と連絡を取り合ったり面談を行うなどコミュニケーションを大切にしてきた。チャーター制度への真意は、昨年と比較して前より強まっている。また、チャーター制度に関する課題も、前より多く見られた。コロナウイルス感染症との関連が考えられる。

○	2021年度年報（看護学教育センター）	21	7. 実習に関する事項	21	新型コロナウイルス感染症拡大により実習計画に変更が生じた場合は、実習目的達成と学生間の実習内容に差が生じないように、実習可能な施設への実習受け入れ、調整状況、学生間の実習内容等について実習委員会と連携を図った。	新型コロナウイルス感染症拡大により実習計画に変更が生じた場合は、実習目的達成と学生間の実習内容に差が生じないように、実習可能な施設への実習受け入れ、調整状況、学生間の実習内容等について実習委員会と連携を図った。					
○		38	6. 2) 実習に伴う教室利用の計画・調整	38	教育センター・学生生活支援センターと連携し、実習に関する教室使用と実習内容の調整を行う。学生では実習委員会における各体の動向調査に基づき教室や休憩室の配置を行った。3年生では、後期日程からの教室利用の指針の変更に伴い、3年生は11教室（講義室5）を体操場所として利用し、講義室4やそれ以外の教室にて実践と理論の報告と字内の授業が行われることとなった。COVID-19の感染状況により実習（9月）の学生が多く発生したため、追実習用の体操室・字内実習の部屋の調整も行った。	新型コロナウイルス感染症拡大により実習計画に変更が生じた場合は、実習目的達成と学生間の実習内容に差が生じないように、実習可能な施設への実習受け入れ、調整状況、学生間の実習内容等について実習委員会と連携を図った。					
○	2021年度年報（実習委員会）										
○		39	11. 感染症対策（ワクチン接種状況、感染予防等、COVID-19）に関する調整 12. 実習依頼・調整	39	「看護学実習における感染症への対応」について申し送りし、保健管理室と連携し、教員への報告方法を決定し周知した。 2022年度実習計画調整・実習依頼は、主たる実習施設である大学病院の病棟移転に伴い実習病棟の変更・調整の上確定した。感染症対策は、「実習における新型コロナウイルス感染症への対応2021年度改訂版」を作成し対応した。	実習期間中は、各カールで実習前検査の実施、学生の体調に関する教室・保健管理室への相談、感染症による実習受け入れ中止時の施設・病棟変更等の調整を行い、学生への不利益が生じることなく臨場実習が実施できた。	40	COVID-19に関連する健康状態の報告遅延は、実習施設への影響が甚大となることから、重大性についての指導を強化する。			
×	実習委員会議事録（2021年6月23日）		2. 補習実習措置の継続について		厚労省・文科から連絡があり今年度も新型コロナウイルス感染症に伴う特別措置として補習実習は継続する。						
×	教員会資料（2021年6月23日）		補習実習		2021年度も引き続き運用され、教授会において「補習実習」について報告があった。	実習期間中は、各カールで実習前検査の実施、学生の体調に関する教室・保健管理室への相談、感染症による実習受け入れ中止時の施設・病棟変更等の調整を行い、学生への不利益が生じることなく臨場実習が実施できた。				学生名から「補習実習願」の提出があり、補習実習を展開した。	
×	2021年度実習における新型コロナウイルス感染症への対応について※格納場所：実習委員会～32.				対応について、1)～6)に分けて明示した。1. 実習に行くにあたり、学生に1) 体温37度以上、症状の有無、2) 咳、3) 咽頭痛、4) 嗅覚・味覚障害、5) 呼吸器系症状のある人の有無を必ず確認させる。2・3. 実習期間前・中・後に上記1)～3)に該当すると連絡を受けた場合、4. 実習期間中の学生が新型コロナウイルス感染症と診断された場合、5. 実習部署で受け持ち患者、もしくはスタッフが新型コロナウイルス感染症と診断された場合、6. 実習部署（P10）3. 感染症実習継続共通事項（P10）3. 感染症実習に該当する機会。	新型コロナウイルス感染症拡大により実習計画に変更が生じた場合は、実習目的達成と学生間の実習内容に差が生じないように、実習可能な施設への実習受け入れ、調整状況、学生間の実習内容等について実習委員会と連携を図った。					

・看護学実習におけるCOVID-19対策



<p>・進級率、休学者、退学者</p>	○	2021年度教育年報	86	(3) 学生右顔状況 進級率（原級留置率）	86	留年者は第2学年122名、第1・3・4学年は0。進級率は第2学年は34.9%、第1・2学年は10.1%、第3学年は11.9%、第4学年は11.1%、第1・2学年は0。退学者数は、第2学年は1名、第3学年は1名、第4学年は1名、第1・2学年は0。	97	進級率は高水準を維持している。	進級率は高水準を維持している。	進級率、休学者、退学者は教員会で随時、報告されている。教員会でも共有されている。		
	×	2021年度教授会議議事録：公開資料なし（学内教職員のみ閲覧可能）	97	4. 卒業生の学修成果（1）卒業要件と修科状況	97	2019年度の休学者は3,49%（2017年度入学者数86名、休学者数3名）、2020年度の退学者は3.49%（2017年度入学者数86名、退学者数3名）。	97	退学者率は前年度（7.45%）より低下した。	引き継ぎ、休学者・退学者を引き下げるために、入学時から学生の特性や成績の推移に注意して指導を行っている必要がある。			
	○	2021年度年報	19	2.3）保健師科目・助産師科目への対応	19	休学者・退学者に関する教員会で共有されている。	2.3）選抜はスケジュールに沿って進級した。					
	×	保健師国家試験受験資格希望者の選抜手順（2021年教授会資料）		保健師国家試験受験資格希望者選抜手順について		保健師国家試験受験資格希望者選抜手順が審議された。	12月の教員会で選抜結果が審議され、40名を選抜することが承認された。					
	×	助産師国家試験受験資格希望者の選抜手順（2021年教授会資料）		助産師国家試験受験資格希望者選抜手順について		6月の教員会で選抜手順が審議され、承認された。	1月の教員会で選抜結果が審議され、7名を選抜することが承認された。					
	○		33	2. 現行カリキュラムの運営評価の調査 1) 学生を対象とした調査	33	1・3年生の総代・副総代に、現行カリキュラムに対する評価意見を求めた（2022年2月）。	1・3年生共に現行カリキュラムについておおお満足しているとの回答であった。1年生では、時間割の配課、科目の偏重についても中内性・内外性について意見を述べた。2年生では、科目の偏重と履修科目の選択の自由度について意見を述べた。3年生では、前記の意見が少なかったためグループワークをすすめるのが大変だった。看護技術を学ぶモチベーションを持つために1年生の実習で患者さんへの援助の実際に関わる時間があると最終的に3年生の意見でも生かせるかと思ふ、などの意見があった。	33	今後の課題として各学年の履修ガイドダンスなどの際に、学年目標の意味内容を丁寧な説明する必要があるが挙げられた。			
	○	2021年度年報	33	2. 現行カリキュラムの運営評価の調査 2) 学年目標の運用	33	昨年度作成したDの学年目標は今年度から運用している。学年目標に含めたい言葉や示す意味内容がどの程度理解しやすいか、また、現行カリキュラムに配慮されている科目とシナジーを構築したDの各項目との整合性を確認するために、Dの学年目標の到達に即座して認める項目について学生調査を実施した。	前期調査（2021年7～8月実施）の学年別回答率は13.3～42.6%、後期調査（2021年12月～2022年3月実施）は71.4～98.9%であった。学年目標について、1年生は分かりにくいと感じている。2年生は自分自身の進捗を把握している。3年生は学年目標の達成は、必修科目・選択科目についていずれの学年においても学生にとって学年目標の達成に即座して認める項目と科目配課の偏重はみられないことが確認できた。	33				
	○		34	2. 現行カリキュラムの運営評価の調査 3) 卒業生を対象とした調査	34	就職支援委員会と共同し、2020年度卒業生および卒業生の就業状況に対しては在学生の就業内職について、卒業生に対する調査を実施した。卒業生が就業内職に修得できた意見等についてはアンケート調査を行った。	就職支援委員会と共同し、2020年度卒業生および卒業生の就業状況に対しては在学生の就業内職について、卒業生に対する調査を実施した。卒業生が就業内職に修得できた意見等についてはアンケート調査を行った。					
	○		34	3. 2022年度カリキュラム改正に関する文部科学省申請	34	2020年度からのカリキュラム検討を踏まえて申請に必要な書類を看護学事務課と協働して作成し、6月に大阪府教育庁私学課と書類を提出し、7月に同書類を文部科学省より3点の疑義照会があり対応を行い、1月に教員会にて2022年度のカリキュラムの修正が決定された。カリキュラムとカリキュラムの修正を併せて、D内にてアップした。						

・教員・学生によるカリキュラム評価

○	2021年度教育年報	100	1. 学勢調査 (カリキュラム評価)	100	授業と比較的満足している学生が約9割で、2020年度の約7割に比べて満足度が大きくかつており、例年の通りの水準に近づいてきている。授業に満足した理由に「充実した授業の内容」が挙げられている。臨床実習全体に対する満足度は、全体で60%以上(昨年度は62%)の割合となっており、満足している。留学生も学生を含めるとほとんどの学生が満足している。	100	2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で対面授業が制限されていたことにより授業の満足度が低下している。授業の形態が遠隔授業によるため、満足度が例年の水準に届かなかったと見られる。臨床実習全体に対する満足度は、2020年度とほぼ同レベルであり、臨床実習での学習に關してはコロナ禍にあっても同様の水準を維持したといえる。						
○	HP(カリキュラム(4年間のカリキュラムの流れ)) <a href="https://www.ompn.ac.jp/education/fc_nursing/curriculum.html">https://www.ompn.ac.jp/education/fc_nursing/curriculum.html</a>	※3-2			4年間のカリキュラムの流れが明記されている。								
○	HP(大阪医科大学看護学部カリキュラムツリー 2021年度入学生) <a href="https://www.ompn.ac.jp/education/fc_nursing/tp6640000000ng8-at/72p.jgc00000000q9z.pdf">https://www.ompn.ac.jp/education/fc_nursing/tp6640000000ng8-at/72p.jgc00000000q9z.pdf</a> HP(看護学部カリキュラム(新システム)ツリー(1-4年)) <a href="https://www.ompn.ac.jp/education/fc_nursing/5y7.labus/72p.jgc00000000q76-at/4931k000000080wa.pdf">https://www.ompn.ac.jp/education/fc_nursing/5y7.labus/72p.jgc00000000q76-at/4931k000000080wa.pdf</a>	※3-3 ※3-4			・ディプロマポリシー毎に教育課程の内容が明記されている。 ・各学部における教育課程の承認・順次性、水準を明らかにし、学生の履修計画、学修行動の助けとなるように、2020年度より科目ナンバリング制度を導入した。								
○	HP(看護学部GPA実施について) (2021年度看護学部学年ごとの単年GPA分布) <a href="https://www.ompn.ac.jp/education/fc_nursing/outcomes/gpa2022_.htm">https://www.ompn.ac.jp/education/fc_nursing/outcomes/gpa2022_.htm</a> <a href="https://www.ompn.ac.jp/education/fc_nursing/outcomes/gpa2021_.htm">https://www.ompn.ac.jp/education/fc_nursing/outcomes/gpa2021_.htm</a>	※3-5			看護学部GPA実施について説明し、2021年度看護学部 学生ごとの単年GPA分布を公開している。	23	1. 4) 2020年度及び2021年度前期の成績について科目別成績の平均化をめざし、カリキュラム委員会及びIR室と連携をして各学年のGPAや各科目の履修計画を作成し、教授会で話し、授業改善につなげた。	23	引き続き成績の単純化と学生の学修意欲の向上が必須である。				
○	2021年度教育年報	17-18	1. 4) GPAの分析と単純化、成績・進級、卒業判定と成績不良者への学修指導	19	2021年度看護学部、学年ごとの単年GPA分布、2021年度単年GPA分布と比較が図で示されている。	88	これまで2年生のGPA平均値が学年全体で見るとときに低かったが、2020年度と同様に2.6以上を維持しており、他の学年と同様のGPA水準に近づくと2年生のGPA平均値が若干上昇しているが、他の学年はほぼ同等である。	88	5月の教授会にて報告を行い、GPA2.0未満の学生の学修指導を強化し、卒業後、学修への動機づけを行う。				
○	2021年度教育年報	87-88	2021年度看護学部、学年ごとの単年GPA分布、2021年度単年GPA分布と比較	87-88	2021年度も引き続き授業(実習)改善活動が実施し、実習で応用が求められる時期が多いため、今年度から実習評価が従来の次第評価に実習評価改善報告書を作成し、授業評価改善と合わせて学生に公開した。(2021年度：3月8日～3月31日)	21							
○	2021年度教育年報	21	5. 授業評価と改善 2) 教員の授業改善	21									
○	2021年度教育年報	18	10) 授業見学の推進	18									

・GPA (全体推移・単年GPA・個別GPA)	・授業改善報告書	・ピアレビュー報告書
-------------------------	----------	------------



<p>○ FV実施状況</p> <p>2021年度年報</p> <p>○</p> <p>・実習連絡協議会の報告資料</p>	<p>3. 1) FV実施状況</p> <p>1) 全教員対象の ①全年度と実施 ②分科会と実地 ③分科会と実地 ④分科会と実地 ⑤分科会と実地</p> <p>2) 全教員対象の ①全年度と実施 ②分科会と実地 ③分科会と実地 ④分科会と実地 ⑤分科会と実地</p> <p>3) 全教員対象の ①全年度と実施 ②分科会と実地 ③分科会と実地 ④分科会と実地 ⑤分科会と実地</p> <p>4) 全教員対象の ①全年度と実施 ②分科会と実地 ③分科会と実地 ④分科会と実地 ⑤分科会と実地</p>	<p>3. 1) ①東学部が実施しているFVの 手法を学ぶ講演会を12月15日（水） に実施した。②TP〜教育現場に役 立つ教育教材開発〜と題して、遠 隔地企業にも役立つ教育教材の作成 を実施した。③FV実習教員10名が年 度修業計画に基づき、FV実習教員 10名を「教員力(実習指導)」につ いて勉強した。④8月19日（水） に実施した。⑤ねらいは、新人教員 の教育力に関する自己評価と同職位 間交流ならびにメンターとの取り返 しを行い、同僚・同僚の教育力 を高め、成長を促すこと。⑥新人 教員の成長を促すこと。⑦新人 教員の成長を促すこと。⑧新人 教員の成長を促すこと。</p>	<p>19- 20</p>	<p>3. 1) ①参加は看護学部教員32名 （参加率は92.3%）であり、後 援者として10名（参加率は31%） の参加があった。②参加者が 深まったとの回答が得られた。③参 加は看護学部教員32名（教員参加率 84.2%）および大学院生2名であっ た。アンケート（回答率86.3%）で は参加者全員が今後の教育に役立つ 機会となったと回答した。④新人 教員の成長を促すこと。⑤新人 教員の成長を促すこと。⑥新人 教員の成長を促すこと。⑦新人 教員の成長を促すこと。</p>	<p>19- 20</p>	<p>3. 1) ①参加は看護学部教員32名 （参加率は92.3%）であり、後 援者として10名（参加率は31%） の参加があった。②参加者が 深まったとの回答が得られた。③参 加は看護学部教員32名（教員参加率 84.2%）および大学院生2名であっ た。アンケート（回答率86.3%）で は参加者全員が今後の教育に役立つ 機会となったと回答した。④新人 教員の成長を促すこと。⑤新人 教員の成長を促すこと。⑥新人 教員の成長を促すこと。⑦新人 教員の成長を促すこと。</p>	<p>23</p>	<p>TPについては、看護学部で各年度か ら導入している形で、今年度も 実施した。今年度のFVについては、 今年度で一連のプログラムが完成でき た。</p>																																																
													<p>3. 1) ①東学部が実施しているFVの 手法を学ぶ講演会を12月15日（水） に実施した。②TP〜教育現場に役 立つ教育教材開発〜と題して、遠 隔地企業にも役立つ教育教材の作成 を実施した。③FV実習教員10名が年 度修業計画に基づき、FV実習教員 10名を「教員力(実習指導)」につ いて勉強した。④8月19日（水） に実施した。⑤ねらいは、新人教員 の教育力に関する自己評価と同職位 間交流ならびにメンターとの取り返 しを行い、同僚・同僚の教育力 を高め、成長を促すこと。⑥新人 教員の成長を促すこと。⑦新人 教員の成長を促すこと。⑧新人 教員の成長を促すこと。</p>	<p>38- 40</p>	<p>3. 1) ①参加は看護学部教員32名 （参加率は92.3%）であり、後 援者として10名（参加率は31%） の参加があった。②参加者が 深まったとの回答が得られた。③参 加は看護学部教員32名（教員参加率 84.2%）および大学院生2名であっ た。アンケート（回答率86.3%）で は参加者全員が今後の教育に役立つ 機会となったと回答した。④新人 教員の成長を促すこと。⑤新人 教員の成長を促すこと。⑥新人 教員の成長を促すこと。⑦新人 教員の成長を促すこと。</p>	<p>40</p>	<p>実習指導者対象のFVを定期的に実施 し、看護学部教員能力の向上に努め、成 果を評価する。</p>																																							
																					<p>3. 1) ①東学部が実施しているFVの 手法を学ぶ講演会を12月15日（水） に実施した。②TP〜教育現場に役 立つ教育教材開発〜と題して、遠 隔地企業にも役立つ教育教材の作成 を実施した。③FV実習教員10名が年 度修業計画に基づき、FV実習教員 10名を「教員力(実習指導)」につ いて勉強した。④8月19日（水） に実施した。⑤ねらいは、新人教員 の教育力に関する自己評価と同職位 間交流ならびにメンターとの取り返 しを行い、同僚・同僚の教育力 を高め、成長を促すこと。⑥新人 教員の成長を促すこと。⑦新人 教員の成長を促すこと。⑧新人 教員の成長を促すこと。</p>	<p>37</p>	<p>2. 今年度はCOVID-19感染拡大を鑑 みて、第1部の全体会議は分科会対 面形式で開催した。</p>	<p>37</p>	<p>全年度は実習指導者等4名と教員 29名、分科会（6領域）は実習指 導者等32名と教員20名がそれぞれ参 加した。全体会議では実習員会で作 成した実習指導者実習委員会印帳も 行った。実習指導者の質向上を図る ことができた。</p>	<p>40</p>	<p>昨年度は本学の感染対策方針に基 き対面開催を中止し、非対面開催とし た。今年度は全学年オンラインで開催 した。その中で多数の実習指導者 および実習員会が実習指導者の質 向上に向けた取り組みを行い、実習 指導者等4名と教員29名が参加し、 実習指導者の質向上に努めた。</p>																													
																															<p>3. 1) ①東学部が実施しているFVの 手法を学ぶ講演会を12月15日（水） に実施した。②TP〜教育現場に役 立つ教育教材開発〜と題して、遠 隔地企業にも役立つ教育教材の作成 を実施した。③FV実習教員10名が年 度修業計画に基づき、FV実習教員 10名を「教員力(実習指導)」につ いて勉強した。④8月19日（水） に実施した。⑤ねらいは、新人教員 の教育力に関する自己評価と同職位 間交流ならびにメンターとの取り返 しを行い、同僚・同僚の教育力 を高め、成長を促すこと。⑥新人 教員の成長を促すこと。⑦新人 教員の成長を促すこと。⑧新人 教員の成長を促すこと。</p>	<p>56</p>	<p>(1)国際交流活動全体概況 看護学部における国際交流活動の全 体概況を行った。今年度は特に、国 際交流委員会の発起に伴い活動全体 の整理を行うと共に、中山国際医学 医療交流センターとの連携を図りな ら、来年度に向けての活動計画に 基づく委員会予算申請の申請を実施し た。</p>	<p>56</p>	<p>国際交流に関する看護学部の現状を 踏まえ、際交流への意識を含む基礎 づくりを推進する。</p>																					
																																							<p>3. 1) ①東学部が実施しているFVの 手法を学ぶ講演会を12月15日（水） に実施した。②TP〜教育現場に役 立つ教育教材開発〜と題して、遠 隔地企業にも役立つ教育教材の作成 を実施した。③FV実習教員10名が年 度修業計画に基づき、FV実習教員 10名を「教員力(実習指導)」につ いて勉強した。④8月19日（水） に実施した。⑤ねらいは、新人教員 の教育力に関する自己評価と同職位 間交流ならびにメンターとの取り返 しを行い、同僚・同僚の教育力 を高め、成長を促すこと。⑥新人 教員の成長を促すこと。⑦新人 教員の成長を促すこと。⑧新人 教員の成長を促すこと。</p>	<p>56- 57</p>	<p>(3)FV改善に向けた検討 本年度からFV改善に向けた検討は、 実習指導者からFV改善に向けた検討 を実施し、来年度の受検システム主 体の改善に向けた検討を開始した。</p>	<p>56- 57</p>	<p>FV改善に向けた検討 本年度からFV改善に向けた検討は、 実習指導者からFV改善に向けた検討 を実施し、来年度の受検システム主 体の改善に向けた検討を開始した。</p>													
																																																<p>3. 1) ①東学部が実施しているFVの 手法を学ぶ講演会を12月15日（水） に実施した。②TP〜教育現場に役 立つ教育教材開発〜と題して、遠 隔地企業にも役立つ教育教材の作成 を実施した。③FV実習教員10名が年 度修業計画に基づき、FV実習教員 10名を「教員力(実習指導)」につ いて勉強した。④8月19日（水） に実施した。⑤ねらいは、新人教員 の教育力に関する自己評価と同職位 間交流ならびにメンターとの取り返 しを行い、同僚・同僚の教育力 を高め、成長を促すこと。⑥新人 教員の成長を促すこと。⑦新人 教員の成長を促すこと。⑧新人 教員の成長を促すこと。</p>	<p>56- 57</p>	<p>(3)FV改善に向けた検討 本年度からFV改善に向けた検討は、 実習指導者からFV改善に向けた検討 を実施し、来年度の受検システム主 体の改善に向けた検討を開始した。</p>	<p>56- 57</p>	<p>FV改善に向けた検討 本年度からFV改善に向けた検討は、 実習指導者からFV改善に向けた検討 を実施し、来年度の受検システム主 体の改善に向けた検討を開始した。</p>				

56-59	1. 国際交流に関する基盤整備	57	(4)コロナ禍における国際交流方法 検証によるオンライン留学の取組等 検証していたが、当初 協定校であ るミネソタ州立大学マネット校 (以下MSUM)への派遣時に予定され ていた現地でのプログラムの内容を オンラインで実施していただけのよ うに調整し、中山国際医学国際交 流センターと共催でオンライン国際セ ミナーを開催する重むとなった。	59	感染症流行時にも実施できる国際交 流活動を構築することができた。							
56-59		57	(5)遠隔授業の取組に向けた交渉 2020年MSUMの主催するWeb International moduleの教員会議に 参加したことを契機に、2021年トマ スモア応用科学大学（ベルギー）の 国際交流コーディネーターより看護 学生1名の臨床実習の受け入れにつ いて打診された。当該学生の受け 入れに際し、学生が所属する大学の の扱いをめぐって担当者とのコミ ニケーションが進み、今後の交流の 発展を進めていくために議論を始め され、10月に国際交流委員会で審議 を行い、委員会として看護学准教授 の他、中山国際医学国際交流セ ンター長が委員となり、国立台湾 国際交流の打診があり、国立台湾 大学は、既に本学医学部が大学間 協定校であるため、看護学部の国際 交流担当者との連絡を取り、具体的 な交渉の方法を協議した。	59	協定校や協定校との交渉を継続 し、双方方向の交流を行うための本学 での受け入れ体制およびプログラ ムの準備を進める。							
56-59		57	(6)ミネソタ州立大学マネット校 とのMOU更新 2019年4月に協定を締結して以降、 本学生のマネット校派遣やWeb International moduleの取組を契 機で両校の交流をより充実した ものにするべく協定内容の検討を行 った。現在は学生の短期交流を主とし た協定内容となつてはいるが、単位互 換を含めた長期留学での交流を踏ま えた内容に更新する方向で協議中で ある。	59								
56-59	2. 英会話教室	57-58	本朝に学生の英語能力とニーズを調 査して企画に反映させ、英会話初級 レベルで楽しめるアクティビティ中 心のプログラム内容とネットを業者に依 頼した。2021年8月4日～6日の3日 間、毎日9:30～11:30と12:30～14: 30の2部構成とし、参加者は16名、3 日間で延べ43名が出席した。	59	事後アンケートでは高い満足度を得 た。 短期集中日程と日本語サポート付き の企画等開催方法の見直しを行うこ とで参加者が4割に増加した。							
56-59	3. 教員の国際共同研究支援	58	協定校であるMSUMの教員がサステ イナブルな発展を遂げるため、本学 教員に周知を図り論文投稿を助つ た。	59								
56-59	4. MSUMとの学生派遣・受け入れに 関する検討（オンライン会議含む）	58	協定については、2022年11月14日～25 日の日程でMSUMとプログラムの調整 を行なつていたが、新型コロナウイルス 感染拡大のため8月に中止が決 定した。そのため、派遣の代替とな るオンラインプログラムについて備 前し、3月にMSUMの教員を講師に迎 え、オンライン国際セミナーを開催 した。また、協定校との打ち合わせ の調整と国際セミナーの打ち合わせ のため、今年度は計4回（4月、5 月、10月、2月）にMSUMとオンライ ン会議を行った。	59								
56-59	5. 台北医学大学の研修生の受け入れ と研修への学生の派遣に関する検討	58	新型コロナウイルス感染症拡大予防の ため、3月の本学生の派遣は中止 とした。また、今年度9月までの受け入 れ中止が決定している。	59								


2021年度年報（教育センター）

○

○	2021年度合同カンファレンスアンケート (他性)	前七部内科病棟と内分設化膿菌内科病棟で合計4回 (1回は三学部合同、3回は看護学部と薬学部) 実施した。	アンケートでは、「医学看護学部の持つそれぞれの視点について知ることができた」「それぞれの専門性を生かした切り口からの視点での発想を聞くことができて良い学びになった」等の意見があった。	運動器疾患の同手術術の患者1症例を運定し、受け持ち学生同士で事前自己紹介を兼ねて話し合う内容等を調整し、チームごとに準備で運動器を考えた上で、個別に運動器で運動することを考えた。	「視点の違いに気づいた」「専門的知識の違いがわかった」「他職種とのコミュニケーションの重要性がわかった」「他職種の理解・立場理解の大切さがわかった」「チーム医療の重要性がわかった」「学びや考えの共有は、仕事上の関係を良くすることに役立つ」「そう思う」・「とてもそう思う」を合わせたところ、運動器の重要性は97%以上、チーム医療の重要性は97%以上、そう思う・「とてもそう思う」を合わせたところ、三学部とも「プログラム構成」は99%以上、「時間配分」「開催時期」は65%以上であった。以上から、本カンファレンスの目標(三学部の学生が事例カンファレンスを通して学ぶことで、診断や治療に看護の知識・経験を共有し、医療の連携・協働のあり方について考えることができる)は概ね達成できた。	計3回は新型コロナウイルス感染症拡大のために中止となったが、三学部合同のカンファレンスを計5回実施した。医学部生4名、薬学部生38名、看護学部生41名が参加した。	三学部合同のカンファレンスを、2021年9月～2022年2月までに、計8回、計画した。	2021年度多職種連携カンファレンス最終評価 (他性)	2021年度多職種連携カンファレンスアンケート-2021	
○	2021年度多職種連携カンファレンスアンケート-2021	三学部合同のカンファレンスを1回実施した。医学部生4名、薬学部生2名、看護学部生5名が参加した。	アンケートでは、「医学看護学部の持つそれぞれの視点について知ることができた」「それぞれの専門性を生かした切り口からの視点での発想を聞くことができて良い学びになった」等の意見があった。	運動器疾患の同手術術の患者1症例を運定し、受け持ち学生同士で事前自己紹介を兼ねて話し合う内容等を調整し、チームごとに準備で運動器を考えた上で、個別に運動器で運動することを考えた。	「視点の違いに気づいた」「専門的知識の違いがわかった」「他職種とのコミュニケーションの重要性がわかった」「他職種の理解・立場理解の大切さがわかった」「チーム医療の重要性がわかった」「学びや考えの共有は、仕事上の関係を良くすることに役立つ」「そう思う」・「とてもそう思う」を合わせたところ、運動器の重要性は97%以上、チーム医療の重要性は97%以上、そう思う・「とてもそう思う」を合わせたところ、三学部とも「プログラム構成」は99%以上、「時間配分」「開催時期」は65%以上であった。以上から、本カンファレンスの目標(三学部の学生が事例カンファレンスを通して学ぶことで、診断や治療に看護の知識・経験を共有し、医療の連携・協働のあり方について考えることができる)は概ね達成できた。	計3回は新型コロナウイルス感染症拡大のために中止となったが、三学部合同のカンファレンスを計5回実施した。医学部生4名、薬学部生38名、看護学部生41名が参加した。	三学部合同のカンファレンスを、2021年9月～2022年2月までに、計8回、計画した。	2021年度多職種連携カンファレンス最終評価 (他性)	2021年度多職種連携カンファレンスアンケート-2021	
○	2021年度多職種連携カンファレンスアンケート (精神)	前七部内科病棟と内分設化膿菌内科病棟で合計4回 (1回は三学部合同、3回は看護学部と薬学部) 実施した。	アンケートでは、「医学看護学部の持つそれぞれの視点について知ることができた」「それぞれの専門性を生かした切り口からの視点での発想を聞くことができて良い学びになった」等の意見があった。	運動器疾患の同手術術の患者1症例を運定し、受け持ち学生同士で事前自己紹介を兼ねて話し合う内容等を調整し、チームごとに準備で運動器を考えた上で、個別に運動器で運動することを考えた。	「視点の違いに気づいた」「専門的知識の違いがわかった」「他職種とのコミュニケーションの重要性がわかった」「他職種の理解・立場理解の大切さがわかった」「チーム医療の重要性がわかった」「学びや考えの共有は、仕事上の関係を良くすることに役立つ」「そう思う」・「とてもそう思う」を合わせたところ、運動器の重要性は97%以上、チーム医療の重要性は97%以上、そう思う・「とてもそう思う」を合わせたところ、三学部とも「プログラム構成」は99%以上、「時間配分」「開催時期」は65%以上であった。以上から、本カンファレンスの目標(三学部の学生が事例カンファレンスを通して学ぶことで、診断や治療に看護の知識・経験を共有し、医療の連携・協働のあり方について考えることができる)は概ね達成できた。	計3回は新型コロナウイルス感染症拡大のために中止となったが、三学部合同のカンファレンスを計5回実施した。医学部生4名、薬学部生38名、看護学部生41名が参加した。	三学部合同のカンファレンスを、2021年9月～2022年2月までに、計8回、計画した。	2021年度多職種連携カンファレンス最終評価 (精神)	2021年度多職種連携カンファレンスアンケート-2021	

・多職種連携教育

大項目 4. 成果

資料	中項目	小項目	総合評価
①キャリアキュラムの目標を達成している	看護技術経験者評価調査を実施・評価している	看護技術経験者評価調査を実施・評価している	A…十分に実施されている
②社会人基礎力を身につけている	卒業生就職アンケートを実施・評価している	卒業生就職アンケートを実施・評価している	B…概ね実施されている
③雇用者は卒業生の能力に満足している	ジョブポシティングアンケートを実施・評価している	ジョブポシティングアンケートを実施・評価している	C…大層な見直し、改善が必要

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	キャリアキュラム評価委員
・各科目評価	○	2021年度年報（看護学教育センター）	21	5. 授業評価・改善 2) 教員の授業改善	21	5. 2) 2021年度も引き続き授業（実習）改善報告書を作成し、学生に公開した。後期は授業と実習で評価が出される時期が異なるため、今年度から実習評価が追加された。今年度実習評価は、卒業生が授業評価と同様に、卒業生にアンケートを実施し、各科目の満足度を評価した。	70-79	各領域において各科目の実施・評価等を行った。	70-79 同左	各領域において将来に向けた発展方針、課題を挙げた。			
・修単単位数	○	2021年度年報	32	2. 現行キャリアキュラムの運営評価の 1) 教員評価を対象とした調査 2) 学生を対象とした調査 3) 4年生を対象とした調査 4. 2022年度キャリアキュラム改正に向けたキャリアキュラム検討の実施 する文部科学省申請への手続きの準備	32-34	2. 現行キャリアキュラムの運営評価の実施 1) 学生を対象とした調査 2) 卒業生を対象とした調査 3) 4年生を対象とした調査 4) 2022年度キャリアキュラム改正に向けたキャリアキュラム検討の実施 する文部科学省申請への手続きの準備	64-69	2. 現行キャリアキュラムの運営評価の実施 1) 学生を対象とした調査 2) 卒業生を対象とした調査 3) 4年生を対象とした調査 4) 2022年度キャリアキュラム改正に向けたキャリアキュラム検討の実施 する文部科学省申請への手続きの準備	34	1. 2) 授業改善報告書は今年度で4年目となり年度別で改善点の推移が見えなくなっている。  1 2) 2022年度キャリアキュラム改正に関する文部科学省申請 昨年度のキャリアキュラム検討の結果を踏まえて申請書の作成が円滑に行え、質疑応答等の質問事項も十分にクリアした。また、教員評価も改善点を見出し、教育課程変更申請が承認された。	33		

									キャリアサポートへの満足度、就職先には順要とする看護実践能力や卒業生が入学時に修得できていた能力、本学の教育内容に関する意見等についてのアンケート調査を行った。			
					3. 2023年度キャリア支援改正に関する科学的根拠と導入プログラム検討の程度から、カリキュラム検討名義まで申請に必要な書類を看護学事務総局と協働して作成し、6月に大阪府教育庁私学課に書類を提出し、7月に同課より文部科学省に提出した。その後文部科学省より3点の指摘事項があり対応を行い、1月に教育課程委員会から合格の報告を受けた。2023年度入学支援のカリキュラムマップとカリキュラムソートを作成し、HPにアップした。					4. 非常勤教員・兼任教員対象の調査の実施		
					非常勤・兼任教員を対象に「看護学部学生の学習に対する姿勢や態度、自らの学習行動」に関する意見調査(2021年)の結果を、2022年度学生習得度には関与が得られた。学習態度は概ね良好であった。各科目では双方向のやりとりなどに工夫されているが、オンデマンド等も含めた授業のより効果的な方法についてさらに工夫を続けていく必要がある。							
					プログラムの導入・AI教育プログラムの導入、データサイエンス、AI教育認定制度(リテラシレベル)への応募(2022年度)を目指して大阪医科大学 教員・データサイエンス、AI教育プログラム委員会が設立され、看護学部(カリキュラム委員会)から委員2名(事務担当)が任命された。事務担当委員は2023年度「データ処理演習」の3科目を大阪医科大学 教員・データサイエンス・AI教育プログラムとし、情報サイトを公開する等の準備を進めた。							
					30 卒業要件・取得資格							
					3. 修習活動及び内定状況の把握は卒業生に対するアンケートによる卒業生が入学時の修得が決定したことを確認し、学部教務会で報告した。							
					47 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					44 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							
					44 3. 就職活動及び内定状況の把握							
					47 2. 国家資格修得(国家試験合格)							

<p>・ジェネリックスキルテスト</p>	<p>○</p>	<p>2021年度年報</p>	<p>32</p> <p>1.1) ジェネリックスキルテストの実施</p>	<p>1) ジェネリックスキルテストの実施対象者（時期）は2021年度生（1年次前期前）および2019年度生（3年次末）学生には批判的・協働的・創造的思考力などを活用し在学中の自己分析レポートを作成し、また自分の強み・弱みに基づき、自己成長計画を立て、キャリアパスを明確化することを目的として、キャリアシート（ポートフォリオ）にも前記スキル（アンケート追加）を配布し、指導の参考とした。</p>	<p>32</p> <p>学生は11年、9年ともに結果説明の機会を作り、また、教員に対して6月9日の学科会議では在校生の主体的説明会をもちまちな教員でそれを共有し、教員改善につなげる場とした。</p>	<p>48</p> <p>卒業生、施設に関するアンケート結果から緊急時の対応高めることが課題である。卒業1年目で経験が不足しているものもあつたが、多職種との連携が重要である。また、施設員は主体的に改善する必要がある。今後進路という観点が必要かもしれない。</p>	<p>48</p> <p>卒業生、施設に関するアンケート結果から緊急時の対応高めることが課題である。卒業1年目で経験が不足しているものもあつたが、多職種との連携が重要である。また、施設員は主体的に改善する必要がある。今後進路という観点が必要かもしれない。</p>	<p>IP憲と連携して、ジェネリックスキルテストの結果とIPAや実習の成績との関連性を検討する予定である。</p>
<p>・卒業生就職先アンケート調査</p>	<p>○</p>	<p>2021年度年報</p>	<p>44</p> <p>5. 卒業生に関するアンケート調査</p>	<p>5. 卒業生、施設アンケートは、合同実施の教育センターと検討し毎年、継続実施することとした。</p>	<p>48</p> <p>卒業生に関するアンケート調査結果より、学生は正業な知識や技能を身に付けて安全で基本的な看護技術の真践が高評価で、緊急時の対応や後輩への指導が低評価であった。施設員は生命の尊厳、人権の尊重が高評価で多職種との連携協働、国際的な視点が低評価であった。</p>	<p>48</p> <p>卒業生、施設に関するアンケート調査結果より、学生は正業な知識や技能を身に付けて安全で基本的な看護技術の真践が高評価で、緊急時の対応や後輩への指導が低評価であった。施設員は生命の尊厳、人権の尊重が高評価で多職種との連携協働、国際的な視点が低評価であった。</p>	<p>48</p> <p>卒業生、施設に関するアンケート調査結果より、学生は正業な知識や技能を身に付けて安全で基本的な看護技術の真践が高評価で、緊急時の対応や後輩への指導が低評価であった。施設員は生命の尊厳、人権の尊重が高評価で多職種との連携協働、国際的な視点が低評価であった。</p>	<p>大阪医科大学看護学部学生に関するアンケート結果 結果（初稿） <a href="https://www.omp.ac.jp/campuslife/nursing/shokai0000004819-att/72bjgc0000001pdv.pdf">https://www.omp.ac.jp/campuslife/nursing/shokai0000004819-att/72bjgc0000001pdv.pdf</a> IP (2021年度大阪医科大学看護学部卒業生へのアンケート調査結果) 対卒業生 <a href="https://www.omp.ac.jp/campuslife/nursing/shokai0000004819-att/6f2bmg0000001xz6.pdf">https://www.omp.ac.jp/campuslife/nursing/shokai0000004819-att/6f2bmg0000001xz6.pdf</a></p>
<p>・看護技術経歴者評価調査</p>	<p>○</p>	<p>2021年度年報</p>	<p>4</p> <p>6. 実習ポートフォリオの実施 8. 教育環境整備の充実</p>	<p>記入単、活用方法の向上を目的とし、実習ポートフォリオの目的・記入時期についてのオリエンテーションを実施した。学生と教員を対象に実習ポートフォリオに関するアンケートを行った。</p> <p>看護基本技術経歴者アンケートは、3年次以外に実習終了時に1回、3年次は就職意向の調査として実施し、就職意向の調査は、実習終了後、1週間以内に行う。経歴者の取組は、実習終了後、1週間以内に行う。経歴者の取組は、実習終了後、1週間以内に行う。</p> <p>経歴者の取組は、実習終了後、1週間以内に行う。経歴者の取組は、実習終了後、1週間以内に行う。</p>	<p>2) 経歴評価と実習ポートフォリオに関すること ・年度末のアンケート結果では、教員から学生の取り組みに対する温度差について指摘があった（学生がタイムリーに記入しないなど）、学生に対しては実習前のオリエンテーションに説明すること、実習中に進捗を確認し、必要に応じて進捗を伝えることが重要である。5) 教育環境整備の充実 ・物品管理委員会と連携し、「看護学部実習室およびセカンドレベルトレーニングセンター利用要領」と「看護学部実習室での使用要領」を作成した。実習室とセカンドレベルトレーニングセンターの使用方法を一元化した。</p>	<p>24</p> <p>2) 経歴評価と実習ポートフォリオに関すること ・年度末のアンケート結果では、教員から学生の取り組みに対する温度差について指摘があった（学生がタイムリーに記入しないなど）、学生に対しては実習前のオリエンテーションに説明すること、実習中に進捗を確認し、必要に応じて進捗を伝えることが重要である。5) 教育環境整備の充実 ・物品管理委員会と連携し、「看護学部実習室およびセカンドレベルトレーニングセンター利用要領」と「看護学部実習室での使用要領」を作成した。実習室とセカンドレベルトレーニングセンターの使用方法を一元化した。</p>	<p>24</p> <p>2) 経歴評価と実習ポートフォリオに関すること ・年度末のアンケート結果では、教員から学生の取り組みに対する温度差について指摘があった（学生がタイムリーに記入しないなど）、学生に対しては実習前のオリエンテーションに説明すること、実習中に進捗を確認し、必要に応じて進捗を伝えることが重要である。5) 教育環境整備の充実 ・物品管理委員会と連携し、「看護学部実習室およびセカンドレベルトレーニングセンター利用要領」と「看護学部実習室での使用要領」を作成した。実習室とセカンドレベルトレーニングセンターの使用方法を一元化した。</p>	<p>教育環境整備の促進と充実</p>

×	2021年度看護基本技術者チェックリストのまとめ		21	実習ポートフォリオの表紙については、学生・教員ともに実習ポートフォリオの目標を明確に達成できている、と評価している。	24	「看護基本技術経験者チェックリスト」の記入率が今年度も低いいため、検討が必要である。						
×	2021年度実習ポートフォリオの評価		21	実習ポートフォリオの表紙については、学生・教員ともに実習ポートフォリオの目標を明確に達成できている、と評価している。	24	「看護基本技術経験者チェックリスト」の記入率が今年度も低いいため、検討が必要である。						
○	HP(看護師・保健師・助産師)国家試験 <a href="https://www.opmu.ac.jp/education/f_nursing/exam.html">https://www.opmu.ac.jp/education/f_nursing/exam.html</a> HP(国家試験対策支援) <a href="https://www.opmu.ac.jp/education/f_nursing/curriculum/examination.html">https://www.opmu.ac.jp/education/f_nursing/curriculum/examination.html</a>		*4-4	HP内に看護学部(旧 大正医科大学)看護師・保健師・助産師国家試験合格者増勢が記載されている。								
○	2021年度年報		49	1. 全員合格を目指した国家試験受験対策指導の継続 2. 2021年度国家試験対策の企画及び対策講座の実施 3. 2022年度国家試験対策の企画及び対策講座の実施 4. 国家試験対策活動の保護者への周知 5. 模試成績不良者の対策：講座への出席率を向上させる対策の検討、チューターとの情報共有及びさらなる底層方法の検討 6. 国家試験対策(模試および対策講座)の評価	52-53	1.1) 第11回看護師国家試験は受験生(在学生)82名、既卒生1名が全員合格した(全国平均91.3%)。第108回保健師国家試験は受験生33名が全員合格した(全国平均88.3%)。第106回助産師国家試験は受験生6名が全員合格した(全国平均89.4%)。模試は新設された情報院内、学習支援のため、大学行事の日程が変更されることも多く、国家試験対策に日程が重なり、出席率が低くなることもあった。人数の多い学生の健康診断などに関しては、健康管理課などとも連携しながら、より個別対応が可能なよう、保護者の会、同窓会などで学生に負担の少ないよう調整する。						

・資格取得：国家合格者



2022年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価

大項目 6. アドミッションポリシー

中項目	小項目	総合評価
①人間の健康と生活の営みに関心のある人を受け入れている	AP①～⑥の基礎となる基礎学力と応用力が示され、⑥にかかわる入学選抜方法が示され、APD①～⑥の状況について外部指標を用いて評価している。	
②他者の気持ちや立場を理解し、思いやりをもって関わることをできる人を受け入れている		
③看護学を学ぶうえで基礎となる基礎学力と応用力をもっている人を受け入れている		
④他者コミュニケーションをとり協力して行動できる人を受け入れている		
⑤研究心をもち、自ら課題を見出して学ぶ意欲のある人を受け入れている		
⑥看護学を学び、地域社会及び国際社会に貢献したい人を受け入れている		

評価	解釈
A…十分に実施されている	POCIがなされている
B…概ね実施されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大幅に不足し、改善が必要	POCIがなされていない

資料	掲載資料の公開有無	掲載資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	カリキュラム評価委員
資料	○	AP (アドミッションポリシー) (入学希望者の方へ) <a href="https://www.opmu.ac.jp/education/policy/admission_policy.html">https://www.opmu.ac.jp/education/policy/admission_policy.html</a>	46-1	<p>・求める人材像として、以下の1～6が明記されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の健康と生活の営みに関心のある人</li> <li>2. 他者の気持ちや立場を理解し、思いやりをもって関わることができる人</li> <li>3. 看護学を学ぶうえで基礎となる基礎学力と応用力をもっている人</li> <li>4. 他者とコミュニケーションをとり協力して行動できる人</li> <li>5. 研究心をもち、自ら課題を見出して学ぶ意欲のある人</li> <li>6. 看護学を学び、地域社会及び国際社会に貢献したい人</li> </ol> <p>上記①～⑥の項目について、以下の1～5が明記されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語については、読解力、表現力、文章構成力</li> <li>2. 数学については、「数学I」「数学II」の知識に加え、論理的思考力</li> <li>3. 自然科学については、化学基礎的知識に加え、科学的思考力と探求力</li> <li>4. 英語については、読解力、表現力に加え、国際社会の人々と自らコミュニケーションを図ろうとする力</li> <li>5. 地理歴史・公民については、世界史、日本史、地理、現代社会、国際社会、国際関係の知識に加え、国際人として貢献する意欲と行動がとれる力</li> </ol>	3	<p>・入学選抜基本方針については以下のよう明記されている。</p> <p>看護学部では、人材育成の目的を達成するため、学士力(①知識・理解と文化・社会、自然等)、②汎用的技能のスキル、③問題解決能力等(④読解力、志向性、自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等、総合的な学習経験と創造的思考力)を身につけた看護職者を育成し、4年間で看護師国家試験に合格し、各々の国家試験の選抜方法として、教育・建学の精神(併願制)、一般選抜(科目入試、3科目入試)、大学入共通テスト利用選抜を実施している。</p>							
	○	2024年度履修のたびき	3	同上	3								

・入学選抜基本方針  
・入学試験の志願者数と志願倍率



2022年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル（学部 レベル）のキャリアコム評価

大項目 6. 改善

資料	中項目	小項目	総合評価	評価	解釈
①学生、教職員が目標達成のための課題や問題点を共有する場がある	学生と教職員が課題や問題点を共有する場がある			A…十分に実施されている	PKCAがなされている
②評価結果、前回の目標、社会状況などのデータや事実に基づいて、継続性のある次のPlanが立てられている	共有した課題や問題点の取組策を示す場がある			B…概ね実施されている	一部基盤に向けた検討がなされている
				C…大幅な是正し、改善が必要	PKCAがなされていない

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	キャリアコムコメント
・学協会会議事録	×	2021年度第1～11回看護学部学科会議 議事要旨：公開資料なし	-	毎月第3水曜日に開催される全教員が参加する定例会議。	-	必時、全教員で協議すべき事項を協議事項とし、また、各センター、各委員会などからの定期的な報告等を報告事項として実施。	-	31回すべて対面で開催されている。	-	全教員が目標および情報、課題を共有する場として機能しているため、2022年度も継続して行う（但し開催方法は、covid-19の対応の観点からzoomによるweb開催の機会もあり得る）。			
・3センター（看護実践研究センター、看護学教育センター、学生生活支援センター）活動報告	○	2021年度年報 各センターの活動報告を掲載している（公開資料なし、学内教職員のみ閲覧可能）	12～31	各センターの目的を明確にし、目標達成状況を定期的に把握し、目標達成率を把握し、必要に応じて対応策を立案し、課題を文書で共有。	-	各センターとも年報においてPKCAに基づいて記載。	-	3センターとも併せて対面・オンラインで実施されている。	-	2021年度看護学部活動計画に反映させる。			
・卒業生・就職先アンケート調査	○	2021年度年報：(8) 就職支援委員会 HP（2021年度）大阪医科大学看護学部の卒業生を対象としたアンケート結果報告書 https://www.opu.ac.jp/campuslife/nursing/v9oak00000048169-at1/0f2mg000000fzx6.pdf HP（2021年度）大阪医科大学看護学部の卒業生を対象としたアンケート結果報告書 https://www.opu.ac.jp/campuslife/nursing/v9oak00000048169-at1/0f2mg000000fzx6.pdf	47-48	教育内容やサービス等が現在の仕事に活かされているか、就職活動に重要なスキルや経験が得られたか、就職活動に必要だったスキルや経験が得られたか、本学での学びが就職活動にどのように活かされたか、卒業生が社会に必要とされる人材育成に貢献したのかを検証する。	48	大阪医科大学看護学部の就職に関するアンケート結果の要約が公開されている。		卒業生に関する調査結果より、学生は正確な知識や技術の対象者として、基本的な看護技術の習得が重要である。また、卒業生への指導が、就職活動に必要とされている。就職活動の準備が、卒業生への指導が重要である。就職活動の準備が、卒業生への指導が重要である。		卒業生アンケートについて、今後は卒業生への指導が重要である。就職活動の準備が、卒業生への指導が重要である。			
・卒業生・就職先アンケート調査	○	HP（2021年度）大阪医科大学看護学部の卒業生を対象としたアンケート結果報告書 https://www.opu.ac.jp/campuslife/nursing/v9oak00000048169-at1/0f2mg000000fzx6.pdf HP（2021年度）大阪医科大学看護学部の卒業生を対象としたアンケート結果報告書 https://www.opu.ac.jp/campuslife/nursing/v9oak00000048169-at1/0f2mg000000fzx6.pdf	48	卒業生・就職先アンケート調査の結果を踏まえ、就職活動の準備が、卒業生への指導が重要である。就職活動の準備が、卒業生への指導が重要である。		卒業生・就職先アンケートは、合意の上で実施されている。		卒業生の学びの有用性は、概ね高かった。就職活動の準備が、卒業生への指導が重要である。		「国際的に通用する知識・技術を創造する能力の育成」に向けて、今年度より開始された自由科目の履修やコロナ禍に合わせたオンラインによる国際交流などを通じて、国際的感覚を身に付け、グローバルな視野を養う学生への支援を強化し、引き続き評価している。卒業生へのキャリアアップの相談、「看護研究」への参加を促進するために、同窓会活動の活性化に向けた支援が必要である。			
・学生からの要望に対する対応学生・教員懇談会 意見箱の運用	○	2021年度年報	25	6.（学生からの要望に対する対応）意見箱の運用、懇談会の実施。	26	（学生からの要望に対する対応）意見箱の運用、懇談会の実施、意見箱の活用、懇談会の実施、意見箱の活用、懇談会の実施、意見箱の活用、懇談会の実施。	28	46件の要望が提出された。内15件は、意見箱から寄せられた。意見箱の活用、懇談会の実施、意見箱の活用、懇談会の実施、意見箱の活用、懇談会の実施。	30	懇談会や意見箱を通じて、学生が希望する課題や要望を把握し、学生の希望に沿った対応を行う。学生の希望に沿った対応を行う。学生の希望に沿った対応を行う。			

## 大項目 1. ディプロマポリシー

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G～J	評価	解釈
①	A	A	A	A	A	A	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	B	B	A	A	A	A	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
③	A	B	A	A	A	A	A	C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない
④	A	A	A	A	A	A	A		
⑤	A	B	A	A	A	A	A		

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G～J	コメント
・卒業演習評価	A	B	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイブリッドで卒業演習の領域決定と発表会の運営を行い、約9割の学生が秀・優の演習評価を得ており、効果的な実施の成果であると考えます。</li> <li>・学生に提示している卒業演習や研究発表の評価方法に関する資料はありますでしょうか。</li> <li>・コロナ禍で大変ですが、工夫されて卒業演習を実施されています。授業評価アンケート回収率（50～67%）を上げるのが良いと思います。</li> </ul>
・GPA（累積GPA・単年GPA）	A	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目間の評価の平準化が検討されており、学修指導にも適切に活用されています。2年生のGPA平均値が改善され、今後のさらに学修指導の強化や成績の平準化の促進が期待されます。</li> <li>・1～3年生で多くの教科書を購入しましたが、1度も授業で使用していないものがあります。テスト勉強もレジュメを中心に進めるので使用しない教科書は購入する分、もったいない気がします。</li> <li>・GPA低下に関する原因について、考察されていますでしょうか。入学試験選抜方法、コロナ禍の影響、経済状態（バイトで勉強できない）、クラブ関係など、細かいことになってますが、試験の不正行為に対する予防策を講じていますでしょうか。</li> </ul>
・休学率、退学率	A	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍移動についてチューターを窓口に関係機関と連携を取り対応されており、教員間で共有されていると考えます。</li> <li>・進級率が高いのは、きめ細やかな指導の結果であり、大変良いと思います。</li> </ul>
・卒業時到達目標の自己評価	A	B	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業時看護実践能力到達度調査により、アセスメントポリシーに基づいた学修成果を把握されており、今後の教育改善への活用が期待されます。</li> <li>・ディプロマサブプリメントの導入は先駆的な試みで優れた取り組みと思います。</li> <li>・ディプロマサブプリメントを利用法・指導法を教えていただけたら幸いです。よろしくお願いいたします。</li> </ul>
・資格取得：国試合格率	A	B	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度は看護師国家試験、保健師国家試験、助産師国家試験ともに100%高い合格率を維持されており、多角的に国試対策を取られていると考えます。</li> <li>・対策講座において参考書を購入したが、ほとんどの人が自分で購入した参考書を使っており、もったいないように感じた。</li> <li>・素晴らしい国試合格成績を残されています。</li> <li>・毎年のことですが、看護学部の国試対策は素晴らしいです。</li> </ul>

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G～J	コメント
・進学率・就職率	A	B	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年報のデータでは、就職者79名(96.3%)となっていますので、確認をお願いいたします。</li> <li>・新型コロナ感染拡大の影響でインターンシップが制限されている状況で、全員が就職か進学をされており、効果的な学生の就職活動支援が行われていると考えます。</li> <li>・就活に関してユニバでアンケートに回答したが、文字数制限があり、後輩たちに伝えたいことが十分に記載できなかった。何か他の方法でアンケートを実施すると良いと思う。</li> <li>・卒業生82名のうち、就職者(76名)と進学者(3名)を除く残り3名は卒業後に進路決定を持ち越されたのでしょうか。</li> </ul>
・学勢調査	A	B	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学勢調査の結果がHPに公開されており、全体の有効回答率96.9%と高い回答状況であり、調査結果を学生の生活、学修に活用できると考えます。</li> </ul>
・正課外活動ポートフォリオ	B	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年報に正課外活動ポートフォリオに関する記載がわずかで、学生の入力割合も学年間のばらつきがあり、正課外活動ポートフォリオの充実が期待されます。</li> <li>・正課外活動ポートフォリオがDP達成度評価に有効活用されていくことが期待されます。</li> <li>・正課外活動ポートフォリオの入力に関して、2年生の入力率が低いのはなぜでしょうか？</li> </ul>

大項目 2. 環境

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G～J	評価	解釈
①	A	A	A	A	A	A	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	A	A	B	A	A	A	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
③	B	A	A	A	A	A	A	C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない
④	A	B	A	A	A	A	A		

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G～J	コメント
・学内ICT状況 (キャンパスマップ、各階平面図)	A	B	B	A	A	A	A	・講義室のコントロールパネルのデジタル化や学生のネットワーク環境の整備に取り組まれています。 ・キャンパス内におけるICTの整備は進んでおられると思いますが、提供資料のみでは実際の状況を把握するのが難しいと感じました。
・常勤教員数	B	B	A	A	A	A	A	・看護系教員が定員数より3名不足しています。
・文部科学省調査「指定 (認定) 学校概況」等報告書	A	A	B	A	A	A	A	・実習施設の実習指導者数が報告されている。 ・本項目は、左記の情報からのみでは評価を付するのが困難に感じました。
・設備	A	B	A	A	B	A	A	・学生の学習のために利用可能な設備が概ね整っており、学生生活の手引きに施設の利用について、利用時間、利用方法が詳細に記載されていると思います。また、オンライン授業のための環境整備に取り組まれています。評価について、「まったく利用しない」学生の割合が70%以上は⑧セルフトレーニングルーム⑨地下食堂、「満足している」「やや満足している」と回答した割合が50%未満は②演習室・自習室③1階学生ホール④3階オープンスペース⑦情報処理室⑧セルフトレーニングルーム⑩地下食堂⑫クラブ部室であり、意見、要望から見直しを要する学内施設があるように思います。 ・図書館前の机、いすが撤去され、看護学生が食事をする場所がなくなってしまった。看護学部棟でも実習生が昼食をとっているのに、本当に食べる場所がない。 ・セルフトレーニング室とはシミュレータを整備している部屋でしょうか？利用頻度が低いです。この理由として、1) 学生がその設備を知らないのか、2) 利用方法がわからないのか、3) 利用時間が制限されているのか 等いかがでしょうか。この件について、教員間で検討されたことなありますでしょうか？ 看護学生は、病院でのシミュレーション室は利用されていますでしょうか？

## 大項目 3. 過程

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G～J	評価	解釈
①	A	A	A	A	A	A	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	A	A	A	A	A	A	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
③	B	A	A	A	A	B	A	C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G～J	コメント
・各科目評価	A	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各領域による評価が将来に向けた発展方策・課題を含めて丁寧に行われていると考えます。</li> <li>全ての領域で「将来に向けた発展方策・課題」が年報に記載されていることは評価できる点と思います。</li> </ul>
・修得単位数	A	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業要件と取得資格が明記されています。</li> <li>1冊に全ての学年が記載されていて見づらかった。（特に1年次は）</li> <li>原級留置者のフォローはいかがでしょうか。2年連続の留年はありますでしょうか？</li> </ul>
・ガイダンス（教育センター・学生生活支援センター）	A	A	B	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入生および在校生のガイダンスのスケジュールが明確に示されています。</li> <li>ガイダンスへの学生の出席状況は把握されておられますでしょうか。また、欠席者に対するフォローはありますでしょうか。</li> </ul>
・チューター制度	A	A	A	A	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>2021年度の学勢調査では、70%以上の学生がチューターとの面談をしており、チューターの体制に「満足した」「どちらかといえば満足した」と回答した割合が87.3%と高く、効果的な制度となっていると考えます。</li> <li>学年が上がっていくにつれ、チューターの先生との関りがなくなっていく。退職された先生方もおり、自分のチューターが分からない生徒もいた。</li> <li>チューター制度の重要性を踏まえ、チューターの役割の整理や明確化のブラッシュアップを検討されておられることは評価できる点と思います。</li> <li>他のチューターグループの指導内容に関して、教員間で共有されていますでしょうか？</li> </ul>
・看護学実習におけるCOVID-19対策	A	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>COVID-19の感染状況が厳しい中、実習における感染予防への取り組みがされています。</li> <li>39～40P「11.感染症対策（ワクチン接種状況、感染症予防等にかかる調整、12実習依頼・調整の項で重大性の指導を強化とありますが、具体的にどのように強化されますか？すでにできているのであれば、継続するでもよいのではないのでしょうか？</li> </ul>
・実習ポートフォリオ	A	A	A	B	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学教育センターを中心に実習ポートフォリオのオリエンテーションやアンケートを実施されており、活用を促進する取り組みがされていると考えます。</li> <li>チェックリストの記入率が低いというのは具体的にどの程度でどの位を目指していくという目標はありますか？</li> <li>実習ポートフォリオ、看護基本技術経験チェックリストの記載は、紙ベースですかあるいはWEB入力でしょうか。教員は随時、学生の両データを確認することはできませんでしょうか。</li> </ul>

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G～J	コメント
・授業評価	B	A	A	A	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症に伴うオンライン授業の整備を推進し、改善に向けて取り組まれています。ユニバを用いた授業評価により前期は高い回収率を維持できましたが、後期の回収率の改善に向けた取り組みを期待します。</li> <li>・積極的な授業評価を実施されていると思います。</li> <li>・時間割発表が遅いこともあり、対応が遅くなることもあった。</li> <li>・授業評価アンケート回収率(50-67%)を上げるのが良いと思います。HP(学生による授業評価アンケート)を見ると、どうしても講義より実習の評価が高くなります。どの学部も同様の傾向であると推察し、我々教員の課題だと思います。</li> </ul>
・進級率, 休学率, 退学率	A	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教授会で学籍移動の状況が報告され、教員間で共有されていると考えます。</li> <li>・休学率と退学率の数値が大項目1での数値(ともに0.55%)と異なるようですが、算出方法が異なりますでしょうか。</li> <li>・進級・進の学生指導に関して、きめ細やかなフォローがされていると思います。</li> </ul>
・保健師, 助産師コース選抜	A	B	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュールに沿って、保健師、助産師コースの選抜がされています。</li> <li>・保健師の選抜人数が上段では37名、中段では40名と記載されていますが、両者は意味合いが異なりますでしょうか。</li> <li>・保健師コースの選抜は40名承認で37名選抜されたと記載がありますが、後の3名は承認されたけど選抜されなかったということではなかったでしょうか?</li> </ul>
・教員・学生によるカリキュラム評価	A	B	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のカリキュラム評価が実施され、改善に活用されています。また、HPにディプロマポリシーと整合したカリキュラムツリーが示されています。2021年度の学勢調査のカリキュラム評価では、授業の満足度が2020年度より高くなっており、「あてはまる」「ややあてはまる」が約90%で例年の水準に戻っています。</li> <li>・学生から直接カリキュラムの評価意見を求めていることは評価できる点と思います。</li> <li>・「2. 現行カリキュラムの運営評価の実施 1) 学生を対象とした調査」で出た意見での改善できることがあるのであればAに記載してもよいのでは?</li> <li>・時期に関係なく、総代・副総代あるいは意見がある学生から意見を聞く機会がありますでしょうか?</li> </ul>
・GPA(全体推移・単年GPA・個別GPA)	A	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GPAが分析され、指導への活用、科目間の評価の平準化が推進されています。今後、分析結果を踏まえ、学修指導の強化や成績の平準化の促進が期待されます。</li> <li>・GPAの基準に満たない学生に対してチューター教員に学修指導を依頼・実施するシステムを構築していることは評価できる点と思います。</li> </ul>
・授業改善報告書	A	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善報告書を作成し、公開されており、改善点の推移が可視化しやすいと考えます。</li> <li>・授業改善報告書を具体的に教えていただけますでしょうか。</li> </ul>
・ピアレビュー報告書	B	B	A	A	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面ではない授業のピアレビューの検討を要すると思います。</li> <li>・状況が許せば取り組みの再開が期待されます。</li> <li>・授業見学を具体的に教えていただけますでしょうか。</li> </ul>



資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G～J	コメント
・FD実施状況	A	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TPの手法を学ぶ研修会や教育力の向上に関するFDが実施されており、活発であると考えます。</li> <li>・病院の教育担当の看護師がFDに参加するのは良いことだと思います。</li> </ul>
・実習連絡協議会の報告資料	A	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習連絡協議会の開催方法をオンラインとしたことで、多数の実習指導者の参加を得ることができたと考えます。</li> <li>・実習連絡協議会の内容は、適宜（必要な場合）、病院の教育担当の看護師に情報共有されることはありますでしょうか。</li> </ul>
・国際交流活動	B	B	A	A	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流委員会を発足し、ニーズ調査を行い、コロナ禍における国際交流の方法を検討するなど、国際交流の基盤づくりに取り組まれたと考えます。しかし、ニーズ調査の回答率が低く、ほとんどが1年生の回答であり、2年生以上の学生のニーズが不明確です。現状を踏まえた今後の国際交流活動の発展が期待されます。</li> <li>・多面的な国際交流活動が展開されていると思います。</li> <li>・コロナ禍を克服し、今後国際交流の再活性化を期待しています。</li> </ul>
・多職種連携教育	A	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携教育の運営と充実を図る取り組みを行い、多職種連携教育に関するアンケート評価では、学生は重要な観点を把握できたと考えます。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた状況があり、今後の運営のさらなる検討が期待されます。</li> <li>・着実に3学部での合同授業が展開されていると思います。</li> <li>・「4. 多職種連携教育の運営と充実 1) 多職種連携教育科目への対応」は今後卒業して就職する時にもとても重要になってきますので、コロナ禍においてもできることをされ、アンケートでも評価が高かったのよかったですと思います。</li> <li>4. 多職種連携教育の運営と充実 2) 多職種連携カリキュラム小委員会への参加の検討内容をDに記載してもよいのでは？</li> <li>・多職種連携（臨床カンファレンス）に関して、各診療科の指導医に、学生のアンケート結果など、情報共有されいますでしょうか。</li> </ul>

## 大項目 4. 成果

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G~J	評価	解釈
①	A	A	A	A	A	B	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	A	A	A	A	A	A	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
③	A	A	A	A	A	A	A	C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G~J	コメント
・各科目評価	A	A	A	A	A	A	A	・各領域による評価が将来に向けた発展方策・課題を含めて丁寧に行われていると考えます。
・修得単位数	A	A	A	A	A	A	A	・現行のカリキュラムの運用評価がされており、2020年度からのカリキュラム検討を踏まえ、指定規則改正に伴う新カリキュラムの文部科学省申請がされています。 ・教理・データサイエンス・AI教育プログラムに関して、学生の評価はいかがでしょうか？もし、アンケートあるいは個人的なコメントなどが何かあれば教えていただけますでしょうか？
・卒業先評価	A	B	A	A	A	A	A	・全員が就職か進学をされており、就職ガイダンスなどの効果的な学生支援が行われていると思います。
・卒業時到達目標の自己評価	A	A	A	A	A	A	A	・卒業時看護実践能力到達度調査により、アセスメントポリシーに基づいた学修成果を把握されており、今後の教育改善への活用が期待されます。 ・DP達成度を自己評価と客観的評価との両面から可視化していることは評価できる点と思います。両者の数値の比較などについて、フィードバックを行う機会などは予定されていますでしょうか。
・ジェネリックスキルテスト	A	A	A	A	A	A	A	・ジェネリックスキルテストが実施されており、効果的な学生への指導に活用されていると考えます。
・卒業生就職先アンケート調査	A	A	A	A	A	A	A	・卒業生アンケートにより、評価結果や課題を明確にされていると考えます。 ・学外施設に対して、学部はアプローチはされていますでしょうか。
・看護技術経験表評価調査	A	A	A	A	A	B	A	・看護基本技術経験チェックリストの活用が行われ、教育環境整備の充実に取り組まれたと考えます。 ・セルフトレーニングコーナーは学生からの評価も高く、実践力をより向上させる上で有効に機能していると思われまます。 ・2021年度 実習ポートフォリオの評価の次年度の活用変更は具体的にどのように変更されるのでしょうか？ ・実習ポートフォリオ、看護基本技術経験チェックリストの記載は、紙ベースですかあるいはWEB入力でしょうか。教員は随時、学生の両データを確認することはできませんでしょうか。看護基本技術経験チェックリスト記入率上昇の具体的な改善方法を教えていただけますでしょうか。
・資格取得：国試合格率	A	A	A	A	A	A	A	・令和3年度は看護師国家試験、保健師国家試験、助産師国家試験ともに100%高い合格率を維持されており、多角的に国試対策を取られていると考えます。 ・東京アカデミーの模試解説動画が非常に役に立った。 ・大変素晴らしい国試成績を収められています。 ・素晴らしい成績です。うらやましいです。

大項目 5. アドミッションポリシー

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G～J	評価	解釈
①	A	A	A	A	A	A	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	A	A	B	A	A	A	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
③	A	A	A	A	A	B	A	C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない
④	A	A	B	A	A	A	A		
⑤	A	A	A	A	A	A	A		
⑥	A	A	A	A	A	A	A		

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G～J	コメント
・入学者選抜基本方針 ・入学試験の志願者数と志願倍率	A	B	A	A	A	A	A	・HPや履修の手引きにアドミッションポリシーや試験結果を明示されており、入学者受入の方針に沿った人材確保に努められていると考えます。今後、検討事項への取り組みが期待されます。
・入学時調査（新入生の出身校評定）	A	B	B	A	A	A	A	・入学時調査を実施されています。 ・根拠資料がなく評価出来ない ・評価する情報が十分ではないため左記の評価としました。
・入試制度別の成績調査	A	A	A	A	A	B	A	・入学試験別のGPAを把握し、評価されています。 ・選抜方法別に授業を工夫されていますでしょうか？
・ジェネリックスキルテスト	A	A	A	A	A	A	A	・ジェネリックスキルテストが実施されており、効果的な学生への指導に活用されていると考えます。

大項目 6. 改善

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G～J	評価	解釈
①	A	A	A	A	A	B	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	A	A	A	A	A	B	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
								C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	委員G～J	コメント
・学科会議議事録	A	A	A	A	A	A	A	・学科会議が定期的で開催されています。
・3センター（看護実践研究センター、看護学教育センター、学生生活支援センター）活動報告	A	A	A	A	A	A	A	・3センターの活動が発展的で活発なことが年報よりうかがえます。
・卒業生就職先アンケート調査	A	A	A	A	A	A	A	・毎年、継続的に卒業生アンケートが実施され、評価結果から課題を明確にされています。「国際的に通用する知識・技術を創造する能力の育成」に向けた取り組みが期待されます。 ・就業先対象アンケートでの入職時修得度「8. 多職種連携・協働」に対する今後の評価推移が特に注視される項目と思われれます。
・学生からの要望に対する対応 学生・教員懇談会 意見箱の運用	B	B	A	A	A	B	B	・懇談会が開催できない状況が続いているため、今後に向けた開催方法の検討が必要であると考えます。 ・時期に関係なく、総代・副総代あるいは意見がある学生から意見を聞く機会がありますでしょうか



大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラム評価  
2022年度 報告書

発行日 2023年3月30日

発行 大阪医科薬科大学看護学部

〒569-0095 大阪府高槻市八丁西町7-6

著・編集 看護学部カリキュラム評価委員会

池西 悦子 佐々木 綾子 瓜崎 貴雄 北川 祐美